

25 チガヤ (いね科)

時期 5～6月に花穂を出す多年草。

場所 道路ばた、草地、堤防などいたるところにある代表的な植物。県内各地に分布する。

解説 長い地下茎から束生する繁殖力の強い植物。春の終わり頃、若い花穂をツバナ（芽花）といい、甘味があり食べられる。地下茎は薬用（芽根）とする。

昔はチガヤを刈り、雨具の“みの”を作る材料にしていた。

イネ科とカヤツリグサ科の植物は花穂がないと区別が難しいので、花穂の時期に形態をよく観察することが大切である。



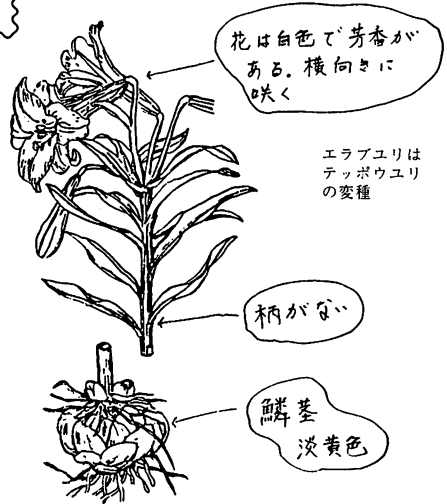
26 テッポウユリ (ゆり科)

時期 5～6月に香気のある白い花が咲く多年草の植物。

場所 海岸近くの岩場から山すその原野にかけて見られる。黒島以南に分布する。

解説 地下には球状または扇球形の鱗茎がある。葉は茎につまがつく。

りんけい
鱗茎→地下茎の一つ。短縮した茎のまわりに養分を貯えて多肉となった鱗片状の葉が密生しているもの。



27 ナンゴクネジバナ (らん科)

時期 春～夏に桃色の花が咲く多年草。

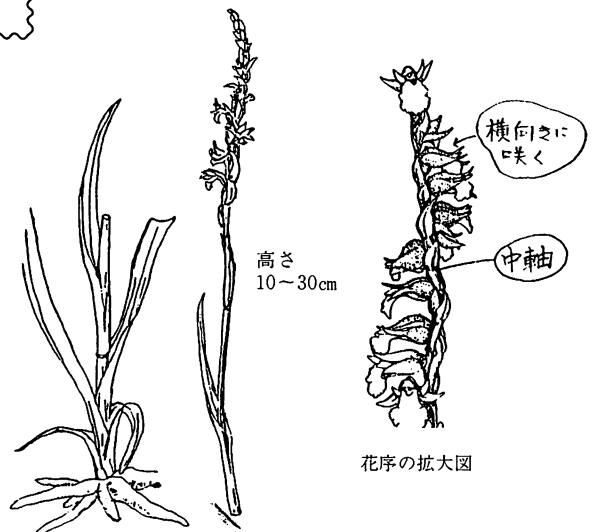
場所 草地や芝生の中によく出てくる。

解説 らん科の植物は、一般に山林内に生育しているが、この種は人里近くに生育している。花が図のようにねじれてつくのが特徴。1つ1つの花をよく見るとほぼ横向きについている。

似た植物 ネジバナ（別名モジズリ）

花序の中軸と子房に毛がある。

ナンゴクネジバナには毛がない。



28 ハイキビ (いね科)

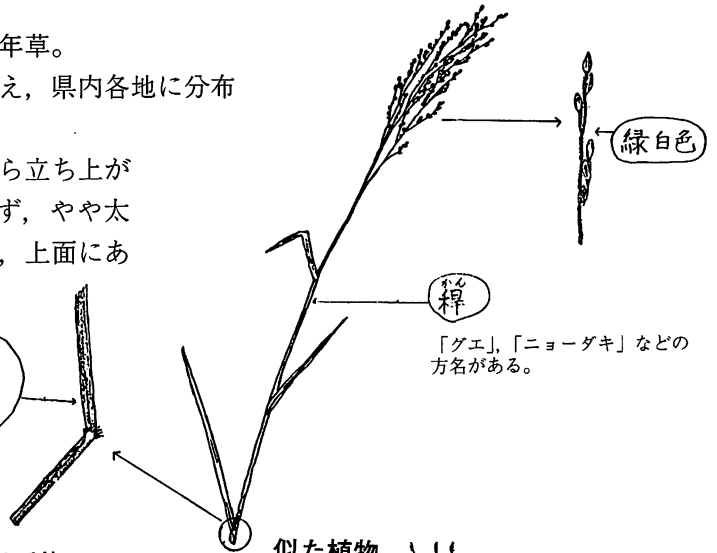
時期 夏～秋に花穂をつける多年草。

場所 原野や小川の水ぎわに生え、県内各地に分布する。

解説 稈は長くはった地下茎から立ち上がり、高さ40～100cm、普通分岐せず、やや太い。葉はやや硬く、縁は内に巻き、上面にあらく毛が生えている。

似た植物 ない。

葉鞘のハリや葉の上面に長い毛がある。



「クエ」、「ニョーダキ」などの方名がある。

29 ハチジョウススキ (いね科)

時期 9～10月に密集した花穂をつける。

場所 海岸近くの道路ばたに生える多年草。

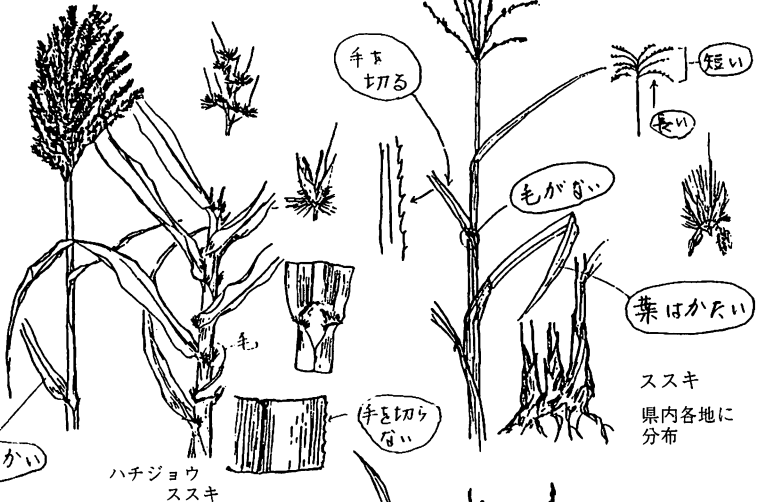
解説 大形の植物で、稈は太く叢生し高さ1～2m内外葉は幅が広く偏平、葉縁はざらつきが少なく、裏面は灰白色をしている。

県本土南部以南に分布

葉はやわらかい

ハチジョウススキ

似た植物



ススキ
県内各地に分布

30 ハマスゲ (かやつりぐさ科)

時期 6～9月頃に花穂をつける。

場所 畑地や海岸の砂地、道路ばた、市街地のグリーンベルト内、街路樹の根元など。県内各地に分布。

解説 長い根茎を地中でのばして繁殖する。ところどころに小さなコブ状のかたまり（塊茎）ができそこから発芽する。そのため除草に手間がかかる。コボシとかコブシの名で呼ばれているがこれは単なる方名ではない。この根を薬用にしそれを“香付子”と呼んだ。この根には香りがあることも確かめてみよう。（そんなに強い香りではない。）

似た植物 ない。



31 ハマヒエガエリ (いね科)

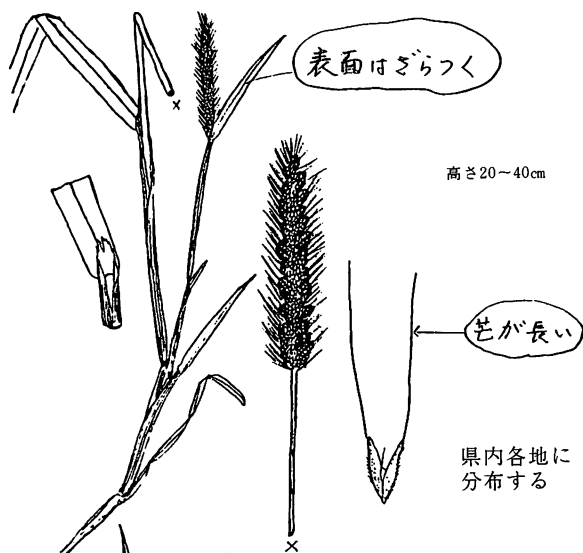
時期 5～8月に花穂をつける二年生の植物。

場所 海岸近くの日当たりのよいやや湿り気のあるところ。

解説 茎は細く、叢生して高さ20～40cm位。葉は軟らかで、表面はいくぶんざらつき、先はとがる。

似た植物 ヒエガエリ

ハマヒエガエリの花序はすき間がなく密生する。ヒエガエリの花序は枝の間にややすき間があり、時に紫色を帯びる。



32 ヒメコバンソウ (いね科)

時期 5～6月淡緑色の花穂をつける。

場所 道ばたや野原、畑に生える。

解説 全体が緑色の一年生の植物で、群がって生える。茎の上に特異な形をした小穂を多数つける。

ヒメコバンソウの名は小さなコバン型の実にちなんだもの。これをふると、実がふれあって音が出るので、昔の子供達はこれでよく遊んだものである。



33 ヒメヒオオギズイセン (あやめ科)

時期 7～8月頃に朱色の花をつける。

場所 日当たりの悪いやや湿った所、人家周辺の山かげや土手、道路ばたなどに生える。

解説 ヨーロッパで園芸用に作り出された交雑種。明治の中頃に渡来したとされる。

花はやや朱色を帯びた赤色で、本県では「イッセンバナ」「コメバナ」「タウエバナ」「トビオバナ (屋久島の安房など)」などの方名で呼ばれている。

名前の由来

ヒオオギ→ヒオオギズイセン (葉がヒオオギに、花はスイセンに似るという意味) ヒメ→小さい



いっしょつ
逸出植物
栽培していた
植物が野生化
したもの。

近頃、薬用として、人々の
関心を集めて
いる植物

34 マルバツユクサ (つゆくさ科)

時期 夏～秋に花が咲く多年草。

場所 畑地や人家周辺の空地、庭など県内各地に分布。

解説 花は径8～10mmぐらい、淡青色、全体に毛があり茎の基部は倒伏する。

葉のふちは渡うつような感じ

上側2個の花弁は大きい



急に細くなる

葉の先はとがらず全体に広い



苞は細長い

苞が丸い

葉は細い



シマツユクサ (県本土ではまれ、屋久島以南に分布)

苞に毛があるもの、花弁の白いものなどがある

マルバツユクサ

似た植物 ツユクサ (県内各地に分布)

35 メヒシバ (いね科)

時期 7～9月頃に花穂をつける。

場所 畑地や荒地、道ばたなどに一般的な植物。県内各地に分布。

軸のヘリはザラつく、コメヒシバはトゲはない

耕地、人家付近、道ばたに生える

高さ10～15cm位、全体に毛が多い

グラウンド、道路ばたに踏まれやすいところ

穂のならびがきれい

秋に穂を出す

解説 県本土では“ホトクイ”の名で有名な畑の雑草になっている。

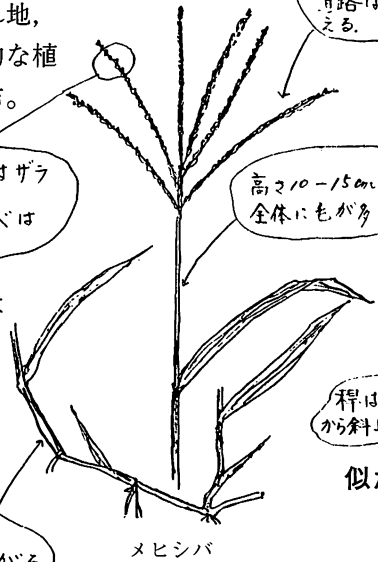
茎は長くはいい、斜めに立ち上がる

稈は基部から斜上する

茎は赤紫色もみ、や、斜にほう。

似た植物 アキメヒシバ

高さ20cm位と低い



メヒシバ



似た植物

コメヒシバ

ヘンリーメヒシバ、花序の枝はメヒシバのように掌状に開かない

穂の数は2～3

小形で日当たりの悪い所に多い



単子葉類の子葉と葉脈

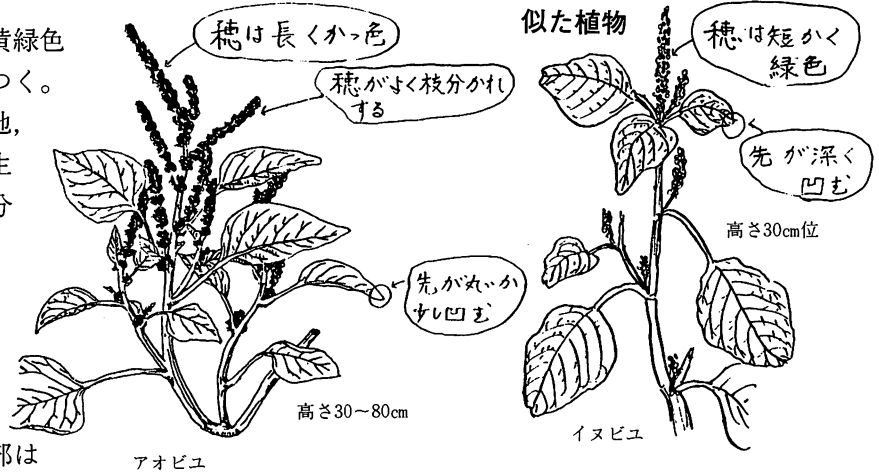
平行	1枚
葉脈	子葉

36 アオビユ (ひゆ科) (ホナガイヌビユ)

時期 7～8月に黄緑色の小さな花が穂状につく。

場所 農地や市街地、荒地、土手などに生える。県内各地に分布。

解説 茎は枝分かかれして高さ30～80cm位、葉は長い柄があって互生、葉の先端は鈍形で凹端、基部は広くさび形～切形。

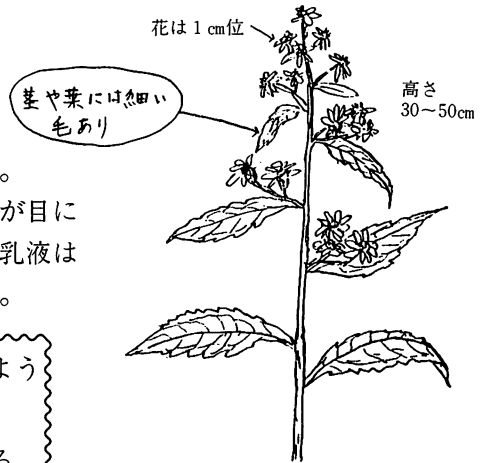


37 アキノキリンソウ (きく科)

時期 秋に黄色の花が咲く。

場所 日当たりのよい山野、畑の土手などに多い。

解説 秋、道路わきの土手などに黄色い小さな花が目につく。他にまぎらわしいものはない。茎を折っても乳液は出ない。茎は細く直立し強い。県内各地に分布する。



同じキク科でも、白い乳液のあるなしで次のように分ける。

キク科 { タンポポ亜科……………白い乳液が出る。
(タンポポ、アキノノゲシなど)
キク亜科……………白い乳液が出ない。
(アキノキリンソウ、ヨモギ、ヨメナなど)

38 アキノノゲシ (きく科)

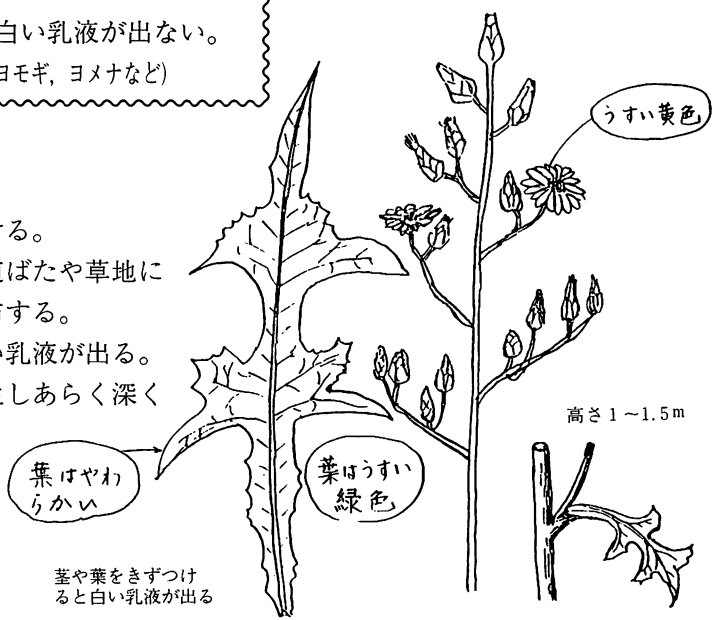
時期 秋にうす黄色の花をつける。

場所 人里付近から山地まで道ばたや草地に普通に見られる。県内各地に分布する。

解説 植物をきずつけると白い乳液が出る。茎は太く中空で直立し、葉は互生しあらく深く切れこむ。

名前の由来

ノゲシ (ハルノノゲシ) に似ており、秋に花が咲くことからアキノノゲシという。

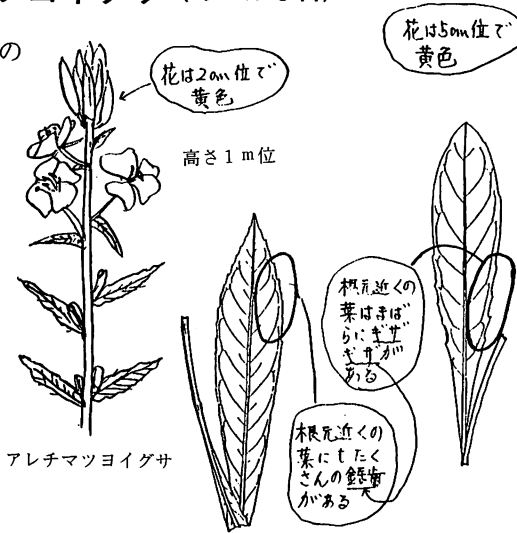


39 アレチマツヨイグサ (あかばな科)

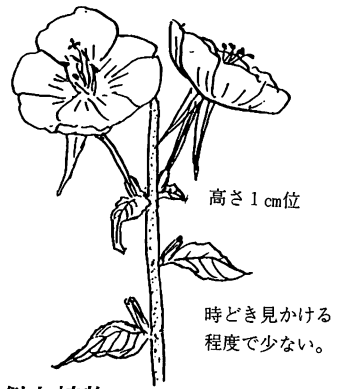
時期 夏に黄色の花をつける。

場所 荒地や道ばたに多い。

解説 花が夕方～夜にかけて開くことにより待宵草と名がついた。朝方には花はしぼむ。



アレチマツヨイグサ



似た植物

オオマツヨイグサ

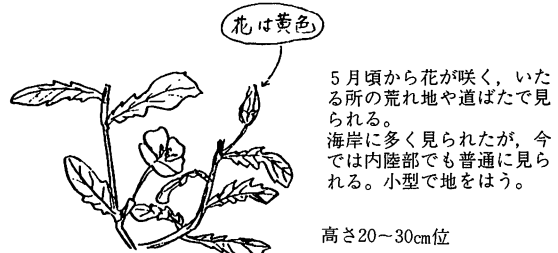
似た植物

5～6月頃が花期で上の2種より時期が早い。高さ50～70cm位、葉は細い。人家付近で見かけるが少ない



マツヨイグサ

花はしぼむと赤みを帯びる。そのため、遠くからは赤や黄色の花が混じっているように見える。



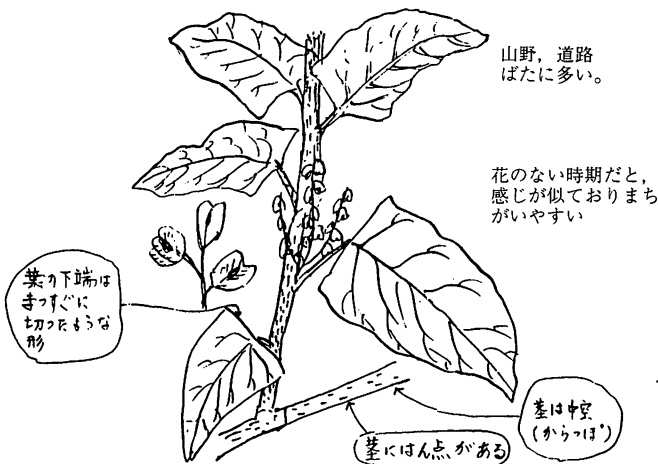
コマツヨイグサ

葉は波うつような感じ

この仲間を月見草と呼んでいるが、月見草は別の植物

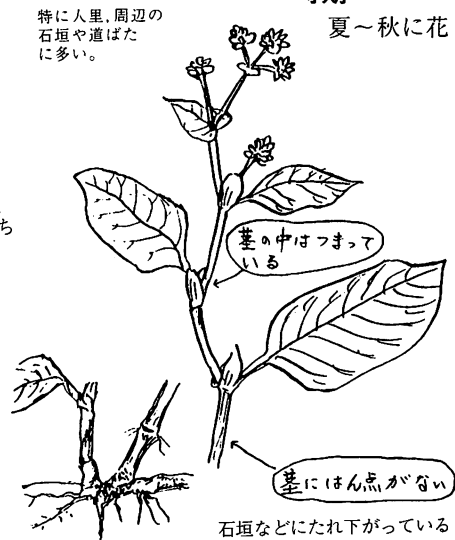
40 イタドリ (たで科)

時期 夏～秋に花



42 ツルソバ (たで科)

時期 夏～秋に花



41 イヌガラシ (あぶらな科)

時期 春に黄色の花をつける。

場所 道路ばた、溝のまわりなどに普通に見られる。県内各地に分布する。

解説 全体無毛で高さ20~30cm位、葉は羽状に裂ける。日当たりのよい場所では、ほとんど一年中、黄色の4弁花をつけている。



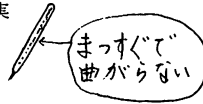
実は2cm位でゆるく曲がっている。

高さ20~30cm位

名前の由来

食べられないカラシの意味

ミチバタガラシの実

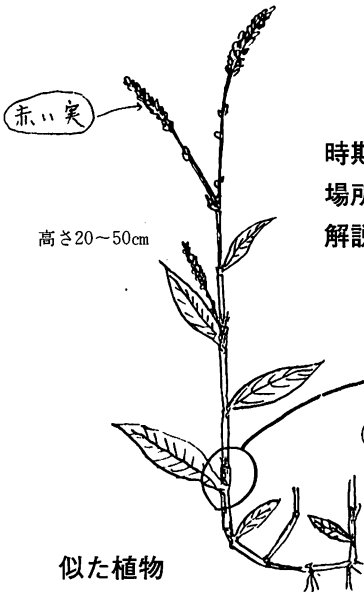


似た植物 ミチバタガラシ

外見はイヌガラシによく似ている。やや小型で、人家周辺の石垣などに多い。

42 イヌタデ (たで科)

植物の名前
イヌ○○○は人にとって役に立たないという意味



赤い実

高さ20~50cm

時期 6月頃から10月頃まで花が見られる。

場所 田畑に多く、道ばた、あき地の雑草である。

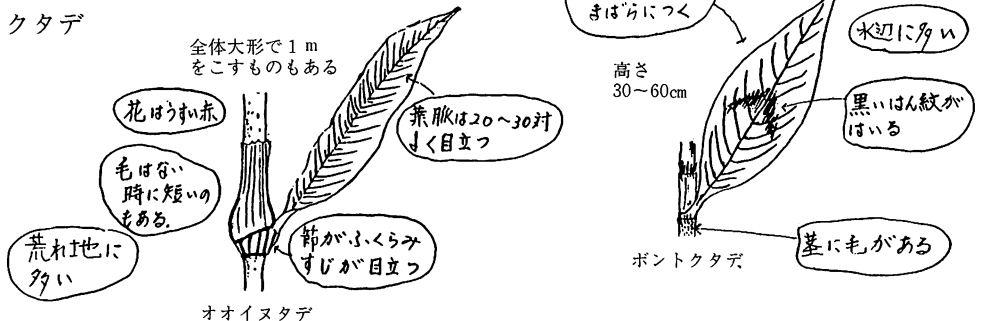
解説 「たで食う虫も好き好き」のことわざで知られている。しかし、この場合の意味は「辛い」葉を食う虫のことをさしているだろうから、この「たで」は葉に辛みのある「ヤナギタデ」をさしていると思われる。イヌタデは葉に辛みがなく食用（さしみのつま等）にならないという意味である。

辛みのあるタデはヤナギタデだけ。

似た植物

オオイヌタデ

ボントクタデ



全体大形で1mをこすものもある

花はうす赤

葉脈は20~30対目立つ

毛はない時に短い毛もある

節がふくらみすじが目立つ

赤い花がまばらにつく

高さ30~60cm

水辺に多い

黒いはん紋がはいる

荒れ地に多い

茎に毛がある

オオイヌタデ

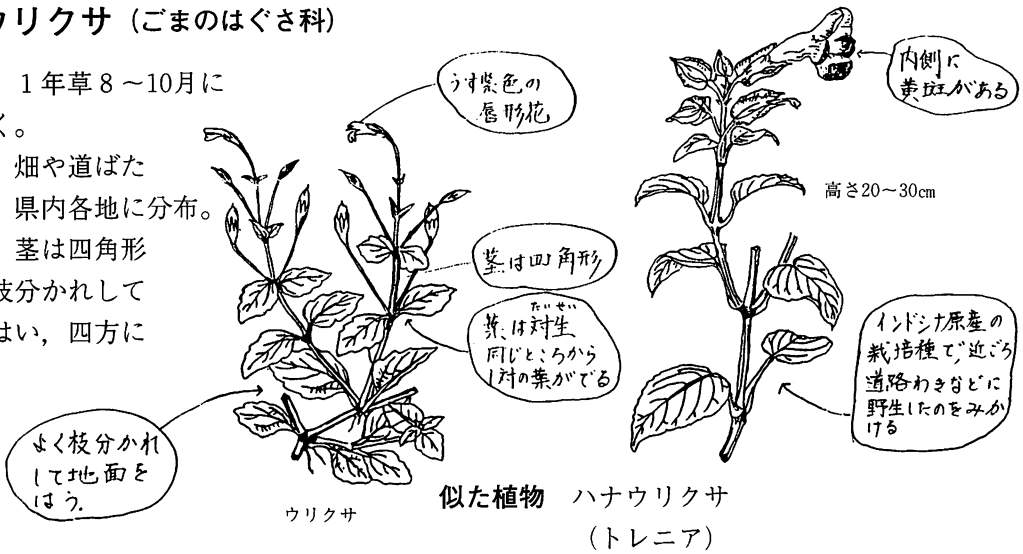
ボントクタデ

43 ウリクサ (ごまのはぐさ科)

時期 1年草 8～10月に花が咲く。

場所 畑や道ばたに多い。県内各地に分布。

解説 茎は四角形で多く枝分かれして地面をはい、四方に広がる。



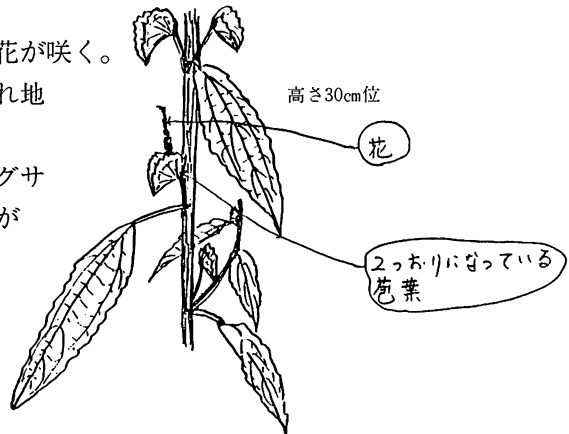
44 エノキグサ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋にかけて小さな目立たない花が咲く。

場所 畑でよく目につく、道路ばたや荒地にも多い。県内各地に分布する。

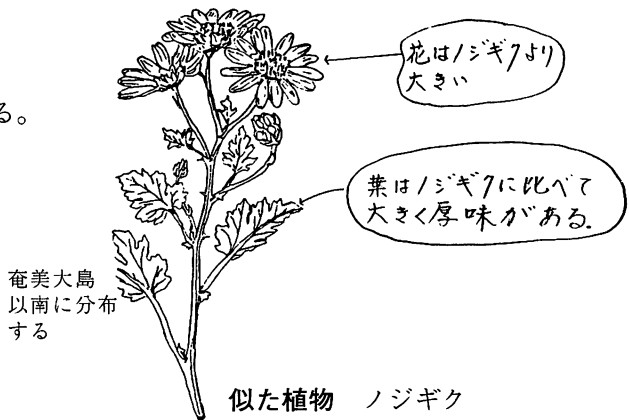
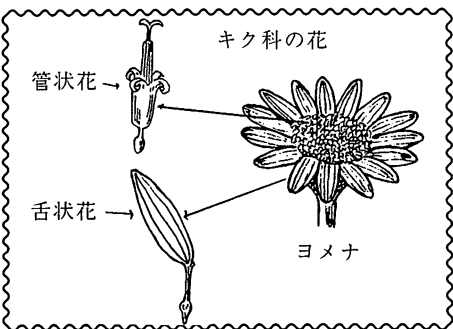
解説 葉がエノキに似ることからエノキグサと呼ばれ、苞葉が2つ折りにになっている姿が「あみがさ」に似ることからアミガサソウとも呼ばれる。

似た植物 クワクサ (No55) (苞葉がない)



46 オオシマノジギク (きく科)

時期 10～11月頃に白い花が咲く。
場所 海岸近くの崖によく生える。
解説 多年草で地下茎を出してふえる。ノジギクの変種になっている。



似た植物 ノジギク
 サツマノギク (毛が多い)
 奄美大島以北では、ノジギク、サツマノギクが生えている。

45 オオアレチノギク (きく科)

88 ヒメムカシヨモギ (きく科)



時期 両者とも夏の後半から秋にかけて花をつける。県内各地に分布する。

場所 荒地や道ばたに生え、両者は普通混生している。森や林の中にはない。いずれも帰化植物で、鎮台草とか鉄道草とも呼ばれてきた。後者は鉄道線に沿って、広がったことによる。高さは1mを越す。よく似ており両者の区別は慣れないと難しいが、一度しっかりと花を見ておくと区別しやすい。ヒメムカシヨモギの葉脈は浮き出るような特徴もある。

似た植物 アレチノギク→花が4~6月頃なので区別できる。頭花は大きい。側枝がよく発達する。

ホウキギク→全体無毛で光沢がある。湿地に多い。冠毛が赤紫色で目立つ。

“注” 両者は混生している

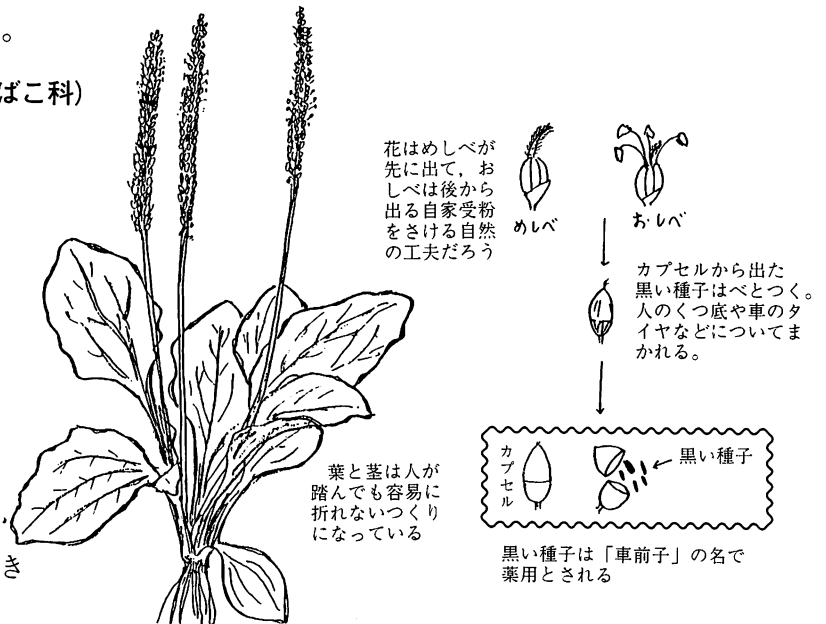
るので注意が必要である。

47 オオバコ (おおばこ科)

時期 春から秋に花穂が出る。

場所 道路のへりや運動場など。

解説 人や車によって踏まれるような所は植物にとって好ましい環境ではない。しかし、オオバコは他の植物との競争に打ち勝つためこのような厳しい環境に生育できるしくみを持っている。



48 オトギリソウ (おとぎりそう科)

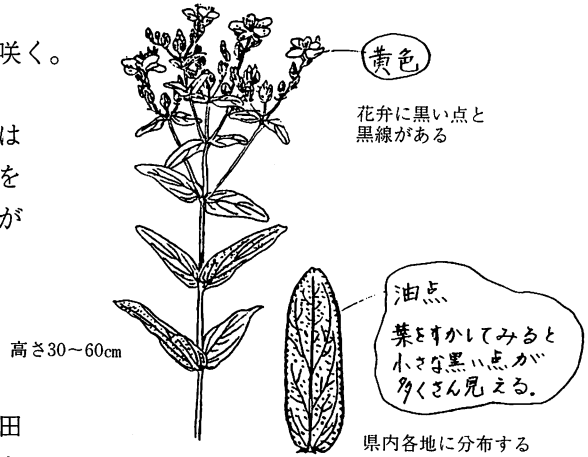
時期 多年草で6～8月頃、黄色の花が咲く。

場所 山地の明るい草原に生えている。

解説 茎は丸く下の方は木質化する。葉は対生し、葉柄がなく基部は円形で、半ば茎を抱き、葉をすかしてみると黒い点(油点)が見える。葉と茎をかわかし葉用にする。

似た植物 コケオトギリ→小形の植物で茎は細く4稜形、県内各地に分布する。

ヒメオトギリ→湿気のある水田のわきや池のふちに生える上方または下方から枝を分け、高さ15～40cm、県内各地に分布する。



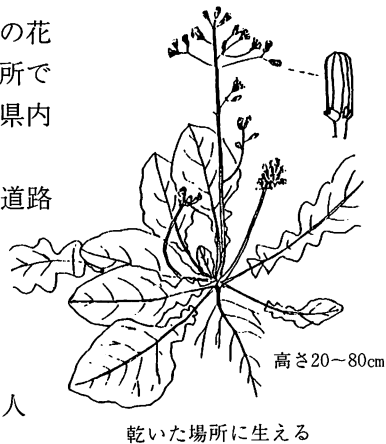
49 オニタビラコ (きく科)

時期 5～6月頃に黄色の花が咲く。日当たりのよい場所では一年中花が咲いている。県内各地に分布する。

場所 人家周辺の石垣、道路ばたなど、いたるところで見られる。

解説 全体に細かい軟毛がある。

タンポポと混同している人が多い。



似た植物 田んぼに多く、3～4月頃に花が咲く県本土、甕島、屋久島、種子島、喜界島に分布する。



湿地に生える
(春の七草のホトケノザはこのコオニタビラコのことである)

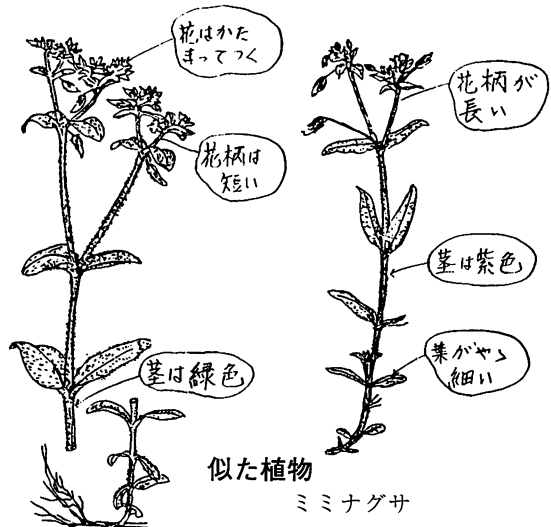
50 オランダミミナグサ (なでしこ科)

時期 4～5月頃に白い花をつける。

場所 道ばた、野原、畑地などに多くみられる。県内各地に分布する。

解説 ヨーロッパ原産の帰化植物。最近では昔から日本にあった在来種のミミナグサよりも多くなっている。

このような現象は他の植物でも起こっている。身のまわりの帰化植物のようすを継続的に観察することも大切なことである。



52 カラムシ (いらくさ科)

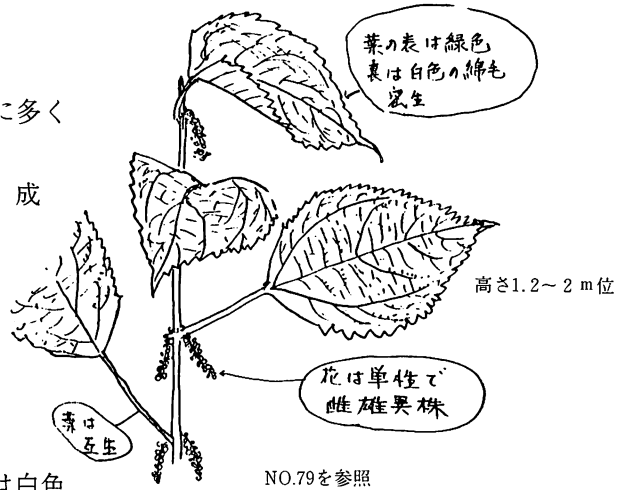
時期 夏～秋に葉腋ようえきに花をつける。

場所 道路ばた、荒れ地、市街地などに多くみられる。県内各地に分布する。

解説 茎は高さ1.2～2 m位に成長し、成熟すると茶褐色となり、葉の表面は緑色で裏面は白色の綿毛が密生し、互生してつく。マオ、ラミーとも呼ばれている。

茎を蒸して皮をとり、布やロープ、魚網を作るのに利用される。

似た植物 イワガネ→互生、葉のうらは白色
ハドノキ→互生、葉のうらは緑色

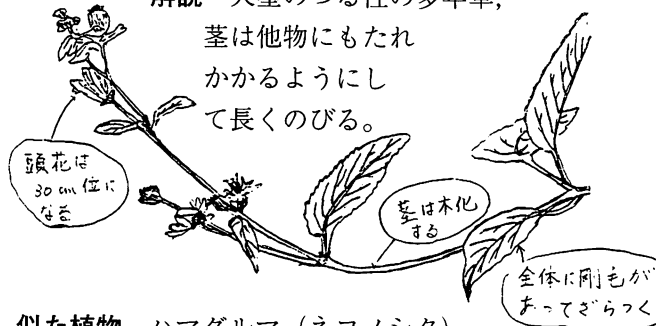


53 キダチハマグルマ (きく科)

時期 夏～秋に黄色の花が咲く。

場所 海岸の砂地または岩場に生える。佐多以南に分布する。

解説 大型のつる性の多年草、茎は他物にもたれかかるようにして長くのびる。



似た植物 ハマグルマ (ネコノシタ)

時期 夏～秋に黄色

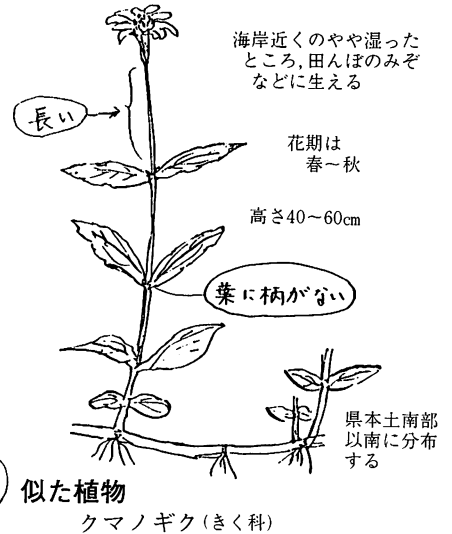
の花をつける。

場所 海岸の砂丘地に生える。県内各地に分布する。

解説 葉は分厚く、ザラつくのでネコの舌にたとえた。



ハマグルマ(ネコノシタ)
(きく科)



似た植物

クマノギク(きく科)

これがいらくさ科のイラクサ。
「刺草」の文字が示すとおり、この植物全体にあるトゲ(刺毛)がさざると、ひどい痛みを感じる。トゲの中に蟻酸(ぎさん)という物質を含むためである。
トゲも左図のように鋭くとがり、しかも折れやすくなっている。
いらくさ科を示す Urtica(ウルティカ)は「ちくちくする」という意味のラテン語からきた言葉。山かげに多い植物。屋久島、種子島以北に分布する。

イラクサ (いらくさ科)

54 ギシギシ (たで科)

時期 6～8月に花をつける。

場所 野原、道ばた、田畑のふちなどに生える多年草。県内各地に分布する。

解説 茎は太く直立し、高さ40～100cm、表面はなめらか、わずかに毛状突起がある。若葉は食べられ、根は皮ふ病の薬として利用される。



似た植物 スイバ→沖永良部以北に分布。

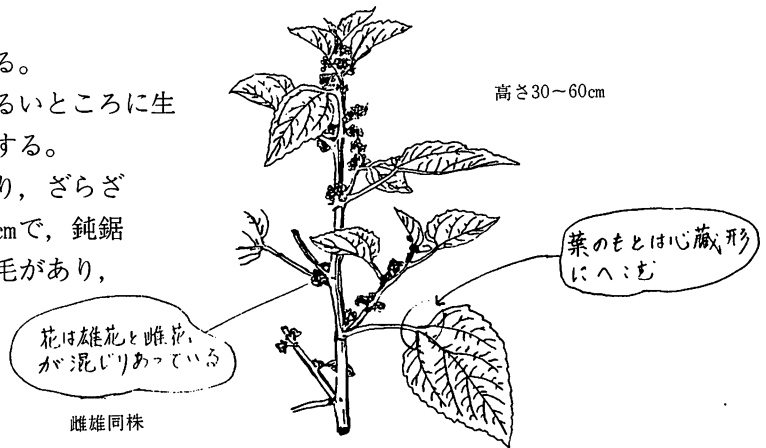
55 クワクサ (くわ科)

時期 9～10月に花をつける。

場所 畑や荒地などの明るいところに見える一年草。県内各地に分布する。

解説 全体に細かい毛があり、ざらざらしている。葉は長さ5～8cmで、鈍鋸歯があり、表面にはあらい伏毛があり、下面にも短い毛がある。

桑の葉に似ているところからクワクサの名が生じた。



似た植物 エノキグサ (No44)

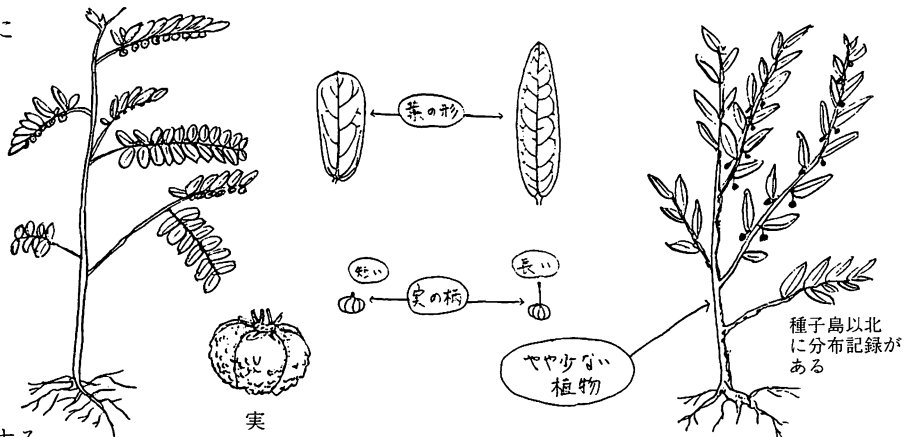
似た植物 ヒメミカンソウ(とうだいぐさ科)

56 コミカンソウ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋に実をつける。

場所 畑や庭に多い。

解説 実の形がミカンに似ていることにより、コミカンソウの名がついた。県内各地に分布する。



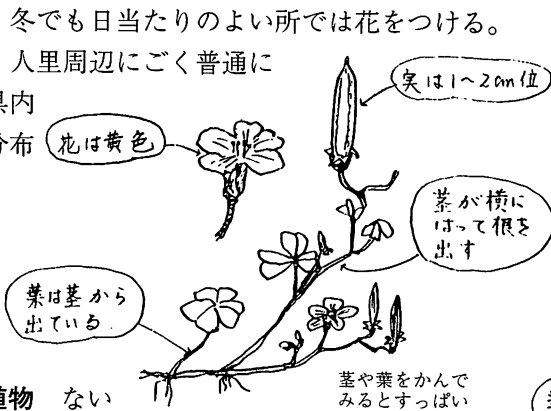
51 カタバミ (かたばみ科)

93 ムラサキカタバミ (かたばみ科)

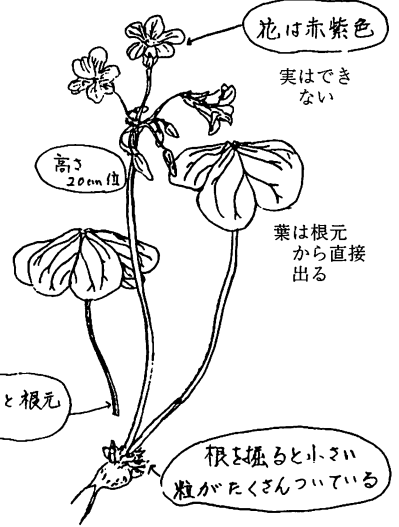
時期 冬でも日当たりのよい所では花をつける。

場所 人里周辺にごく普通に

ある。県内各地に分布する。



似た植物 ない



まめ科の植物は、夜になると葉をとじて“眠る”ということによく知られている。しかし、ここにあげたカタバミやムラサキカタバミも“眠る”ということあまり知られていない。58番のシロツメクサ(まめ科)も眠る。夏の夜は植物たちも意外な面をみせる。カラスウリの仲間の花が開くのは夜、キャンプや夕涼みの折、星といっしょに夜の植物たちも観察してみよう。

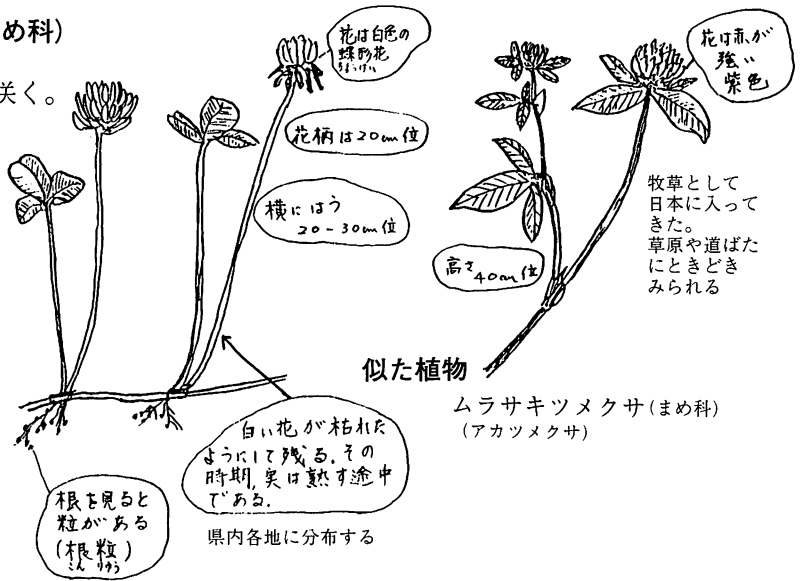
58 シロツメクサ (まめ科)

時期 春～夏に白い花が咲く。

場所 荒地、道路ばた、校庭などに多い。

解説 クローバーの名前で知られているが、クローバーというのはこの仲間を指す英語の呼び方(英名)である。

江戸時代末期に、オランダから贈られたガラス器を入れた箱に、割れないようこの草が詰めてあったからツメクサ、花が白色だから、シロツメクサと呼ばれている。



似た植物

ムラサキツメクサ(まめ科)
(アカツメクサ)

牧草として日本に入ってきた。草原や道ばたにときどきみられる

県内各地に分布する

根粒バクテリア (根粒菌)

高等植物の根についてこぶを作らせ、その中に生息しながら共生関係を結ぶ細菌をいう。マメ科植物の数種は窒素肥料(緑肥)として利用される。

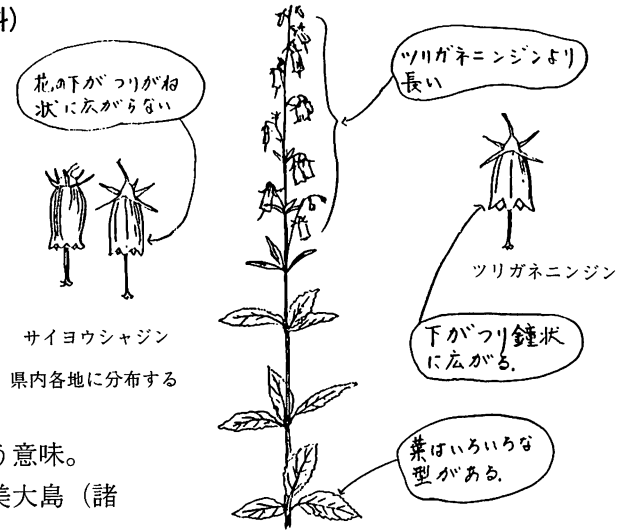
57 サイヨウシャジン (ききょう科)

時期 8月～10月に花が咲く。
場所 山の明るい草原に生える。
解説 地下に太くて白い根があり、朝鮮ニンジンに似るので、この名がある。茎につく葉は3～4枚ずつ輪生するのがふつうだが、対生または互生に変わることもある。葉の幅も変化が多い。

名前由来

ツリガネニンジンの細葉のものという意味。

似た植物 キキョウ 県本土各地、奄美大島（諸島？）栽培種もある。



サイヨウシャジン
県内各地に分布する

59 シロバナセンダングサ (きく科)

時期 9～10月に花が咲く。暖地では冬にも花が見られる。

場所 荒地、道路ばたなどに生える。県内各地に分布する。

解説 舌状花が白色であるので区別しやすい。

この仲間は種類が多いので、区別できるように観察する必要がある。

似た植物 アメリカセンダングサ
コセンダングサ
コバナセンダングサ
ハイアワユキセンダングサ



似た植物 センダングサ

60 シマアザミ (きく科)

花は淡紅色
時に白色もある

時期 7～9月頃に花が咲く。

場所 海岸近くに多く見られる。トカラ列島、奄美大島以南に分布。

解説 大型の多年草で、茎は分岐して高さ30-100cm位になる。クモの糸のように毛を密布し、根生葉は長楕円形。やや厚く羽状に分かれ、表面は光沢がある。

似た植物 アマミシマアザミ
葉の下面中肋に毛がある。

オイランアザミ

葉の先端（トゲのあるところ）が白くなる。



61 シマキツネノボタン (きんぼうげ科)

時期 3～4月に花

水田など湿地に生える

解説

キツネノボタンに似るが、茎や葉に軟毛を密生し、茎は横にはい、ところどころから発根する生質がある。



全体に毛が多い。
県本土南部以前に分布

時期 4～5月に黄色の花

山野の草地に生える



根元の芽は五角形
全体に毛が多い

根元の葉は大きく3つに分かれさらに分かれる
茎の葉の柄は短い
屋久島・種子島以北に分布

時期 4～9月に黄色の花、山地の道ばた小川のふち県内各地に分布する



茎の葉の毛が茎を包く

全体に毛が少ない

似た植物 ウmanoアシガタ(きんぼうげ科)

似た植物

キツネノボタン(きんぼうげ科)

キツネノボタン→茎・葉に立った毛が多く生え葉の裂片はやや幅がせまくて先がとがり、鋸歯もやや鋭い

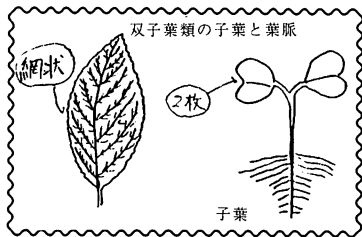
62 シマニシキソウ (とうだいぐさ科)

時期 8～10月に花をつける。

場所 道ばたや畑地にはえる一年草。

解説 茎はななめに立ち、高さ20～60cm。

葉の先はややとがり、上面は青緑色、下面は帯黄色、両面ともに毛が多い。



上からみると正三角形



高さ20～60cm
帰化植物で、今では畑の雑草となっている。

毛が多い

似た植物 ない

63 ジシバリ (きく科)

(イワニガナ)

時期 4～6月に黄色

の花をつける。

場所 あぜ道から

日当たりの良い山地庭に普通な多年草。

解説 茎は細くて地をはいまわるので「地しバリ」の名がついた。



高さ20cmほどの花茎が立ち

葉は卵形

県内各地に分布する

茎や葉を切ると乳液が出る。

葉はへら形で長い柄がある。



葉の先は丸い葉の下が羽状に切れこむものが多い。

県内各地に分布する。

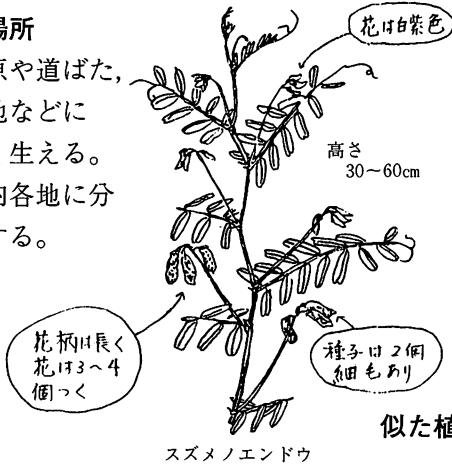
似た植物 オオジシバリ(ツルニガナ)

64 スズメノエンドウ (まめ科) この3種はよく混じって生えているのでよく観察してみよう。

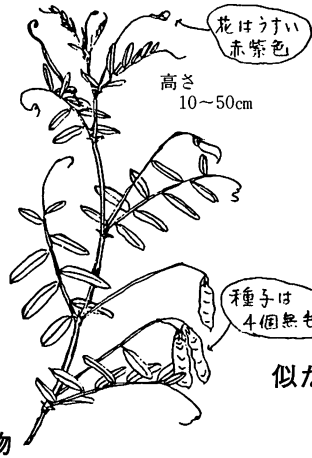
時期 4～5月に花が咲く。

場所

野原や道ばた、畑地などによく生える。県内各地に分布する。



スズメノエンドウ



カスマグサ



似た植物

カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ)

65 スベリヒユ (すべりひゆ科)

時期 夏に枝先きの葉の中心に黄色の花をつける。

場所 庭や畑、道ばたなど。地面をはうような感じ。

解説 全体に毛がなくつるつるしている。葉や茎は多肉質で水分を多く含み、夏の強い日ざしの中での生活に適応したものである。

ゆがいて食べられるが、そのとき粘滑になるので、スベリヒユの名がついたといわれる。



畑の雑草として知られている

似た植物 ない

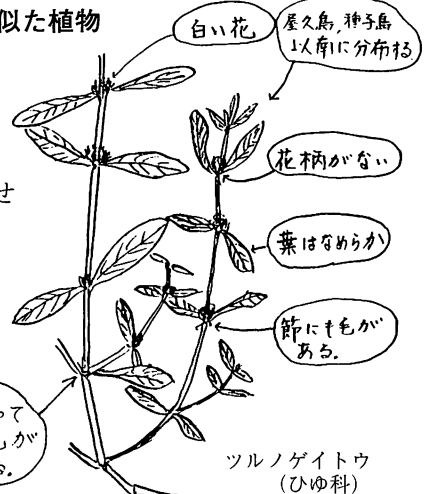
66 タカサブロウ (きく科)

時期 夏に白い花が咲く。

場所 田のあぜ道やみぞのまわりなど。

解説 人の名前を思わせる変わった名前であるが、この植物もありふれていながらほとんど人の目をひかない植物である。

似た植物



ツルノゲイトウ (ひゆ科)

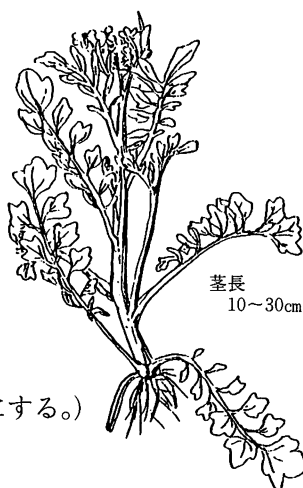


67 タネツケバナ (あぶらな科)

時期 3～6月に白い花が咲く。

場所 水田や川岸, 湿地, 庭などに生える。県内各地に分布する。

解説 葉は羽状に全裂し, 白色の4弁で径3～4cm内外の花をつける。イネのもみ(種子)をまく頃に花が咲くのでこの名前がついた。



似た植物 オランダガラシ (若葉を食用にする。)

小川や池の中などの湿地に生える。茎は30～50cm位になる。白色の花をつける。

68 チチコグサ (きく科)

時期 5～10月に褐色の花をつける。

場所 日当たりのよい草地に多い。

解説 葉の表面はにごった緑色, 裏面は茎とともに綿毛が密生して銀白色をしている。



69 チチコグサモドキ (きく科)

時期 4～

6月に褐色の花をつける。

場所 田んぼ, 道ばた, 人里付近に生える。

モドキとは, 似ているという意味。

帰化植物, 熱帯アメリカ産で各地に分布する。



似た植物

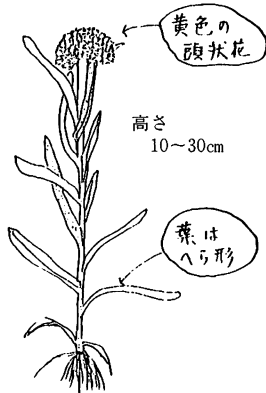
84 ハハコグサ (きく科)

時期 4～6月に黄色の花をつける。

場所 人里付近, 水田, 道ばた, 畑などに生える。

解説 葉の表面に白色の綿毛が密生している。

春の七草のひとつ「ゴギョウ」はハハコグサのこと。県内各地に分布する。



チチコグサモドキ(きく科) タチチチコグサ(きく科)

春の七草

「せり, なずな, ごぎょう, はこべら, ほとけのぞ, すずな, すずしろこれぞ七草」寒い冬, 他の植物に先がけて出てくる。正月の七日の朝, 七草がゆをつくり, 7歳児の成長を祝うところもある。

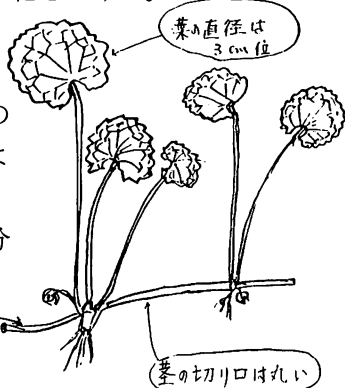
はこべら=ハコベ, ほとけのぞ=コオニタビラコ, すずな=カブ, すずしろ=ダイコン, ごぎょう=ハハコグサ

70 ツボクサ (せり科)

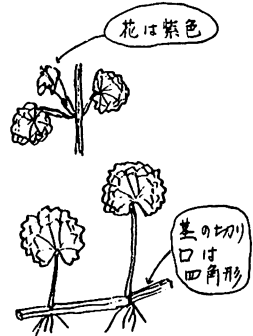
時期 夏に花をつける。

場所

人里から山地にかけての道路ばたによく見られる。県内各地に分布する。



せり科の大部分がニンジンのように頭に傘をさしたような花をつけるのに対して、つる性のチドメグサや、ツボクサの花は感じの違った花をつける。



似た植物

カントリソウ (カキドウシ)

(県本土, 甌島, 屋久島, 種子島に分布する)

71 ツメクサ (なでしこ科)

時期 春～夏に白い花が咲く。

場所 庭や道ばたに多く、やや湿った

日陰のところに普通に見られる小型の植物。県内各地に分布する。

名前の由来

葉の形が切ったツメに似ていることから。



似た植物

ハマツメクサ

海岸近くにあり、よく似ているが、葉は分厚い。県内各地に分布。

オオツメクサ

帰化植物で高さ30～40cm位になる。今後の分布記録が楽しみである。

なでしこ科の植物は全て葉が対生しており、葉には鋸歯がないのが特徴である。

73 ツルマオ (いらくさ科)

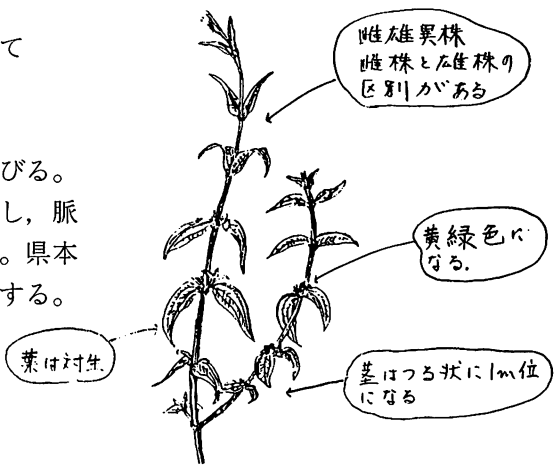
時期 秋に葉のわきに黄緑色の小花が密集してつく。

場所 道ばた, 畑地の土手などに生える。

解説 茎は細く、つる状に1mくらいまで伸びる。

葉は長楕円形状で先はとがり, 3～5脈が平行し, 脈の間に細かい横脈があり, 両面に毛が散生する。県本土 (坊津, 山川), 屋久島, 種子島以南に分布する。

似た植物 ない



74 ツワブキ (きく科)

時期 10～12月に黄色の花をつける。

場所 海岸近くの山野に多く生える。県内各地に分布する。

解説 葉はじん臓形で厚く、光沢があり、長い葉柄があって根生する。花は舌状花と管状花とからなる。葉柄は食用にする。



県本土、飯島に分布する。

似た植物 フキ

75 トウバナ (しそ科)

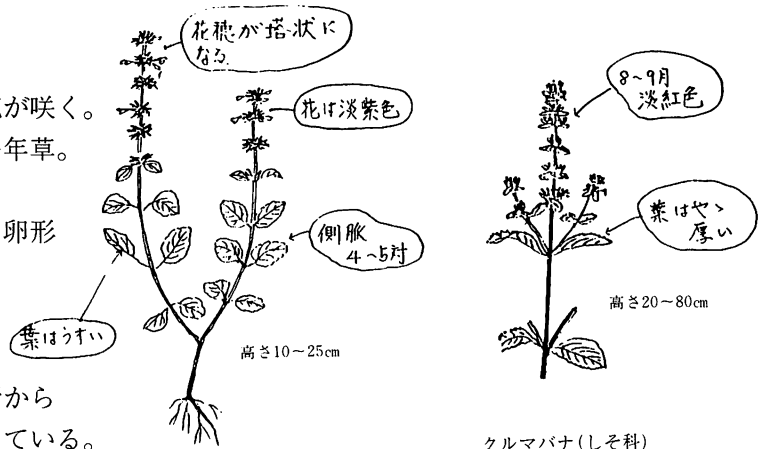
時期 5～8月に淡紅色の花が咲く。

場所 山野や道ばたに多い多年草。県内各地に分布する。

解説 葉は対生で、柄があり卵形をしている。

似た植物 クルマバナ

花が輪生（一か所からたくさん出る）している。



クルマバナ(しそ科)

76 ナズナ (あぶらな科)

時期 2～5月に白色の花が咲く、2年草。

場所 畑、道ばたなど日なたを好む。

解説 冬は（ロゼット状で）地面にひろがっている。春の七草の一つ。夏は枯れる。暖地では冬に開花しているものもある。県内各地に分布する。しかし、トカラ列島では未記録。



似た植物

ゲンバイナズナ

実が軍配（ぐんばい）に似ている。

茎・葉に毛はなく変わったにおいがある。

77 ナワシロイチゴ (ばら科)

時期 花は春に咲き、果実は6月頃に赤熟する。

場所 道路ばた、田畑の土手などで普通に見られる。県内各地に分布する。

解説 茎は高さ30cm位になり、^{とげ}刺がある。葉は鋸歯のある3小葉からなり、下面は密綿毛があって白色となる。花は淡紅色で、果実は食べられる。

似た植物 アオナワシロイチゴ→県内各地に点在する。ナワシロイチゴの変種で葉の下面が緑色。

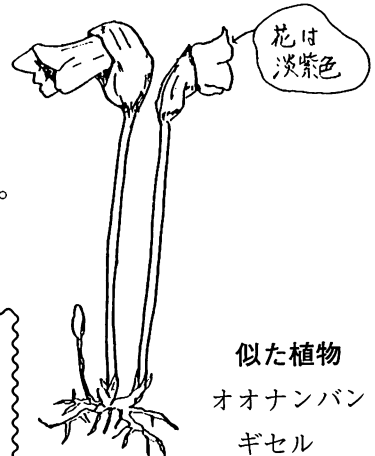


78 ナンバンギセル (はまうつぼ科)

時期 秋に花をつける。

場所 ススキの根元でよく見つかる。県内各地に分布する。

解説 ススキの根から養分をとる寄生植物。形がきせるに似ている。



寄生植物には、ハマウツボ、ギンリョウソウ、ヤドリギ、ヒノキバヤドリギなどがある。

一部の栄養を他から取るものを半寄生 (ヤドリギ)

葉緑素をもたず寄生生活をする全寄生 (ハマウツボ)

枯れ葉などの分解途中に寄生する死物 (腐生) 寄生 (ギンリョウソウ)

似た植物

オオナンバンギセル

花冠のへりに細鋸歯がある
(奄美大島に分布する)

79 ニオウヤブマオ (いらくさ科)

時期 8～9月に花をつける。

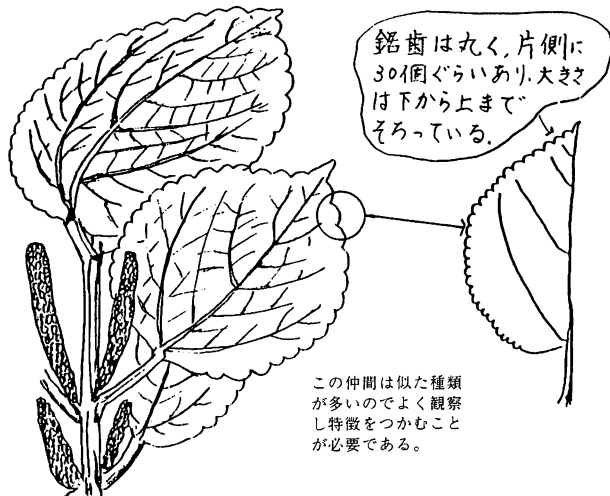
場所 海岸の近くに生える。

徳之島以北に分布する。

解説 茎は直立して1m位、木質化して、短毛を密生する。葉は20～26cm位で、下面にビロード状の絹毛がある。

似た植物 オニヤブマオ→屋久島以北に分布する。重鋸歯がある。

カラムシ (No52)



80 ヌスビトハギ (まめ科)

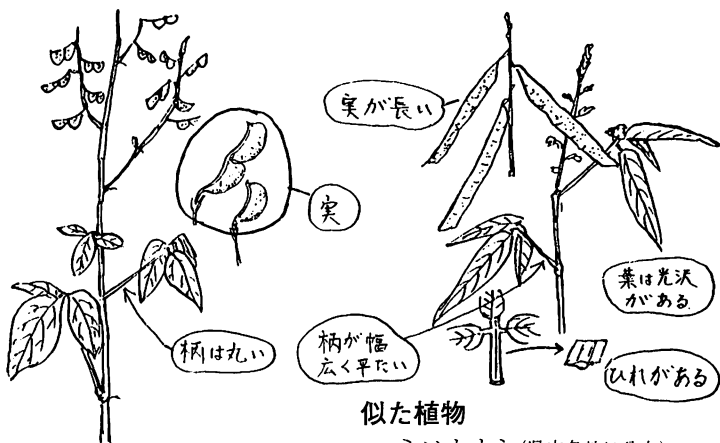
時期 夏に花をつける。

場所 林道や道路ばたのやぶに多く生える。県内各地に分布する。

解説 秋の山道を歩くと、必ずといってよい程、実がズボンについてくる。

名前の由来

この実の形が、ヌスビトが音を忍ばせて歩くときの足跡に似るからという説と音もなく人にとりつくからという説の2つがある。



似た植物

ミソナオシ (県内各地に分布)

81 ハイニシキソウ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋に実をつける。

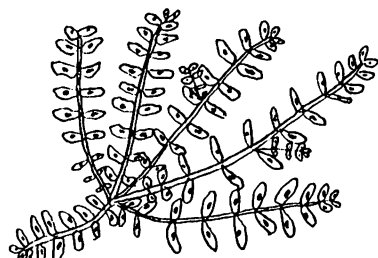
場所 家の庭や畑、道ばたなど地面にはっている。

解説 熱帯アメリカ原産の帰化植物、茎は根もとから枝を分け、ちぢれた白毛が多い。

奄美群島、トカラ列島屋久島に分布する。



ハイニシキソウ



似た植物

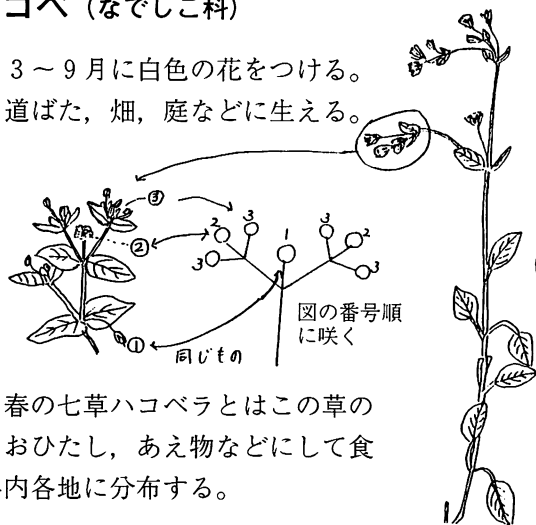
コニシキソウ (県内各地に分布)



82 ハコベ (なでしこ科)

時期 3～9月に白色の花をつける。

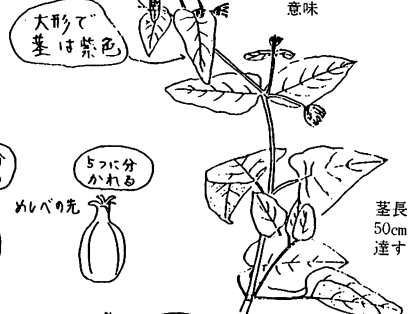
場所 道ばた、畑、庭などに生える。



解説 春の七草ハコベラとはこの草のことで、おひたし、あえ物などにして食べる。県内各地に分布する。

似た植物

ウシのように大きいという意味



茎長 50cmに達する

ウシハコベ (県内各地に分布する)

果実

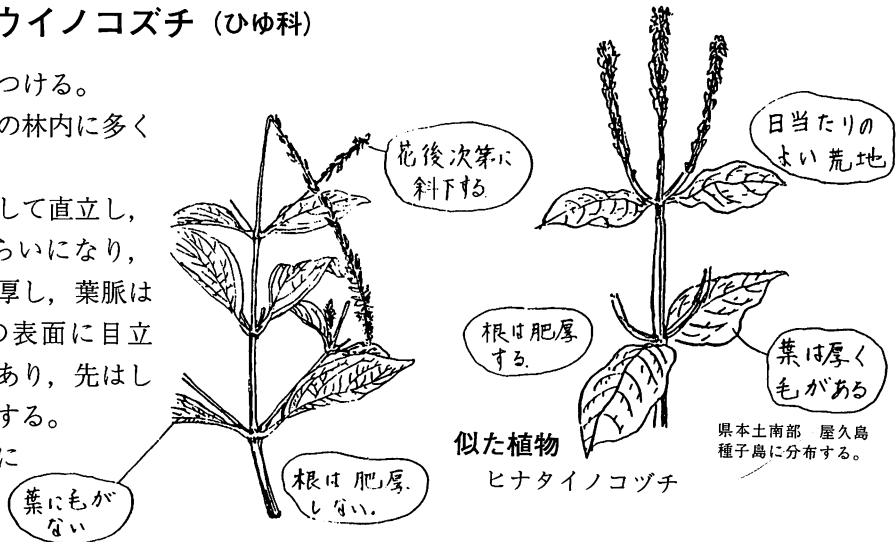
83 ハチジョウイノコズチ (ひゆ科)

時期 秋に実をつける。

場所 海岸近くの林内に多く見られる多年草。

解説 茎は分岐して直立し、高さ50~100cmくらいになり、節部はいくぶん肥厚し、葉脈は6~8対あり表の表面に目立つ。表面は光沢があり、先はしだいにとがり対生する。

県本土南部以南に分布する。



似た植物 ヒナタイノコズチ

県本土南部 屋久島 種子島に分布する。

85 ハマウド (せり科)

時期 4~7月に白い花が咲く。

場所 海岸の岩場や草地にはえる大形の植物。県内各地に分布する。

解説 高さ1~1.5mにもなる。葉の表面は光沢があり、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。

似た植物

ボタンボウフウ (No92)

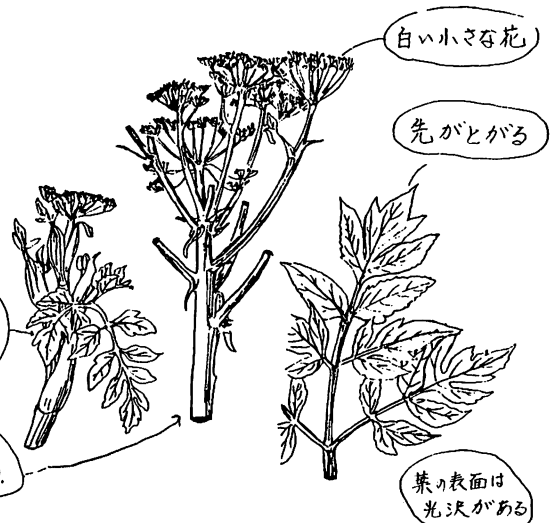
葉や茎を切ると乳黄色の汁が出る。

不ぞろいの細鋸歯がある。

白い小さな花

先がとがる

葉の表面は光沢がある



86 ハルノノゲシ (きく科)

時期 4~8月に黄色の花が咲くが暖地では冬でも花を見ることがある。

場所 原野の道ばた、荒地に多い二年草。県内各地に分布する。

解説 5~10月に黄色の花

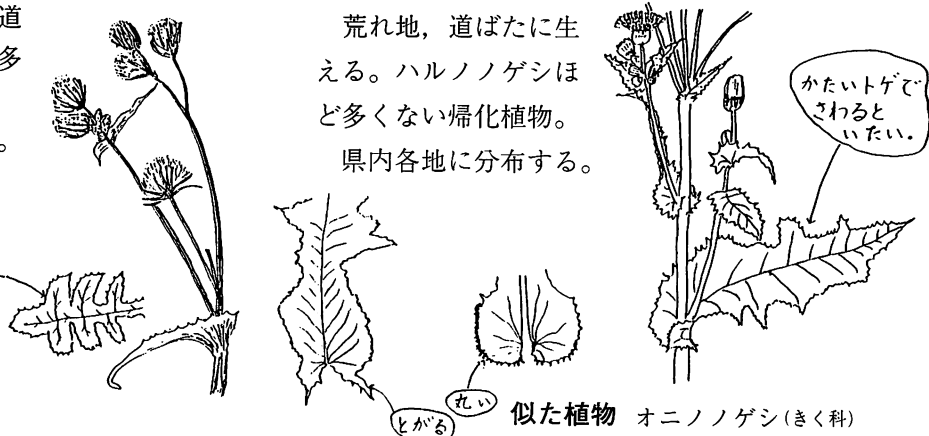
荒地、道ばたに生える。ハルノノゲシほど多くない帰化植物。県内各地に分布する。

さわってもいたくない

かたいゲでさわるといたい。

とがる

似た植物 オニノノゲシ(きく科)

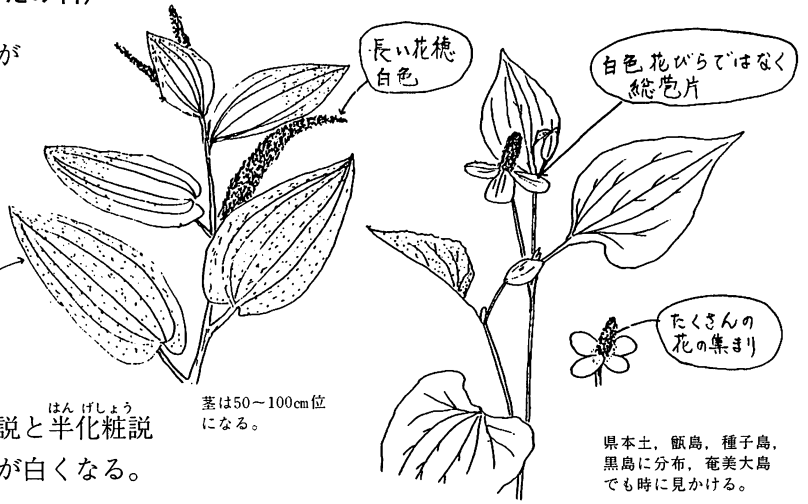


87 ハンゲシヨウ (どくだみ科)

時期 6～7月に白色の花が咲く。

場所 道ばた、林の日かげなどの湿地に生える多年草。地下茎でふえる。県内各地に分布。

花の辺り、花に近い葉の下部が白くなる。



名前の由来

はんげしやう
半夏生 (夏至から11日目) 説と半化粧説
と2つの説がある。葉の半分が白くなる。

茎は50～100cm位になる。

県本土、飯島、種子島、黒島に分布、奄美大島でも時に見かける。

似た植物 ドクダミ

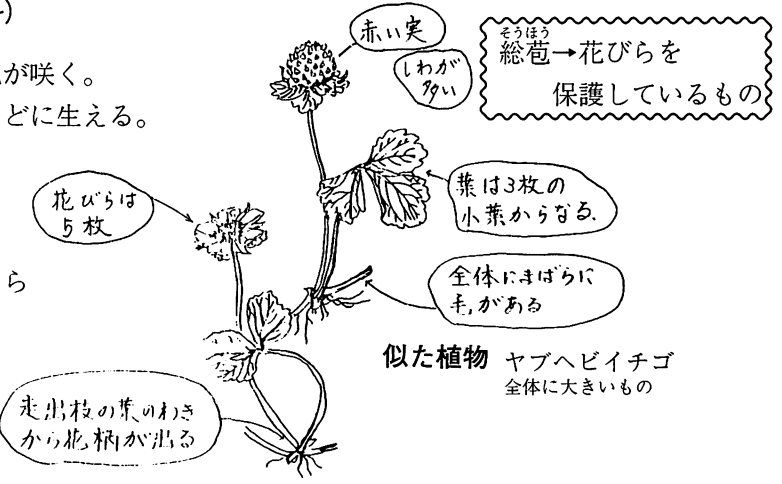
89 ヘビイチゴ (ばら科)

時期 4～6月に黄色の花が咲く。

場所 野原や田畑のあぜなどに生える。県内各地に分布する。

解説 走出枝を出して増える。全草まばらに毛がある。無毒であるが食用にならない。

走出枝→地上茎の基部から出て地上を横走する細い茎



似た植物 ヤブヘビイチゴ
全体に大きいもの

90 ベニバナボロギク (きく科)

時期 7～9月に花をつけるが暖地では冬でも花を見ることがある。

場所 道ばた、山野などいたるところで見られる。県内各地に分布する。

解説 南アメリカ原産の帰化植物。葉は互生する。若い葉は食用になる。

不ぞろいの銹菌がある



茎は50～100cm

似た植物 ダンドボロギク→帰化植物で各地に広がりつつある。花は淡緑色か黄褐色。

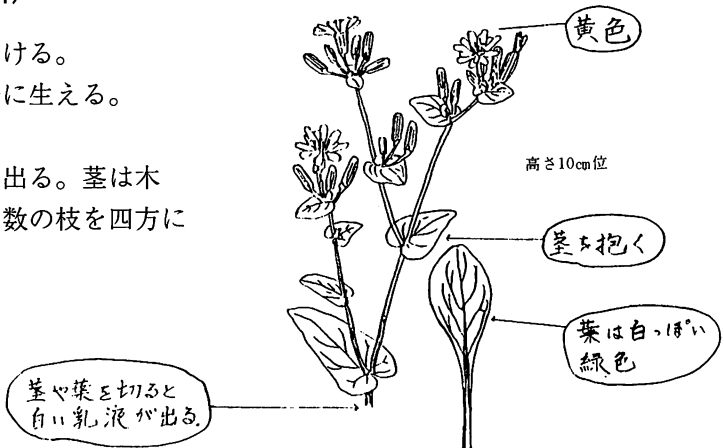
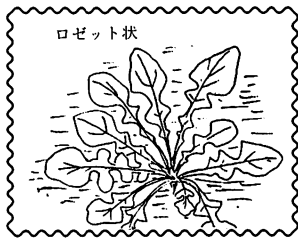
91 ホソバワダン (きく科)

時期 夏～秋に黄色の花をつける。

場所 海岸や海岸付近の岩場に生える。

県内各地に分布する。

解説 根生葉はロゼット状に出る。茎は木化する。高さ10cm位になり、多数の枝を四方にのばして広がる。



92 ボタンボウフウ (せり科)

時期 7～9月に小さな白色の花が集まって咲く。

場所 海岸近くの崖や岩場に生える多年草。県内各地に分布する。

解説 葉は1～2回3出羽状複葉で、枝を分けて大きな株になる。

昔、許可を得てチョウセンニンジン(御救免)ニンジンの名もある。



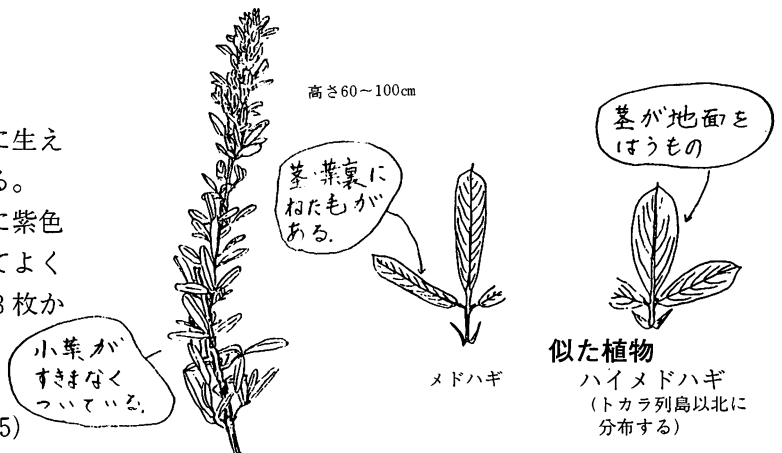
94 メドハギ (まめ科)

時期 8～10月に花が咲く。

場所 日当たりのよい草原に生える多年草。県内各地に分布する。

解説 花は黄白色で、旗弁に紫色の斑がある。茎は硬く直立してよく分枝し、葉は7～25mmの小葉3枚からなる葉を密につける。

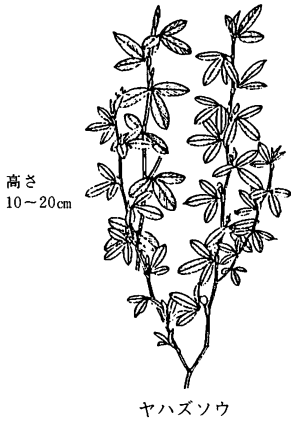
似た植物 ヤハズソウ (No95)



95 ヤハズソウ (まめ科)

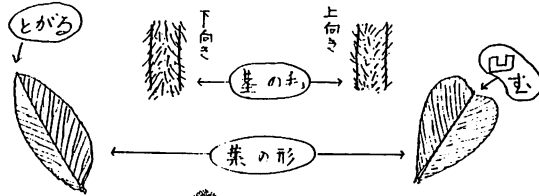
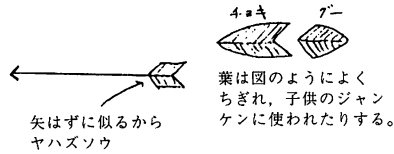
時期 夏～秋に花が咲く。

場所 荒地や道ばた、川の堤防など市街地から山地まで多い。地面に低くもりあがるようにして茂る。県内各地に分布する。



解説

似た植物



96 ヤマヒヨドリ (きく科)

時期 秋に白色の花をつける。

場所 山地や草原に生える多年草。

解説 茎の下部は無毛で、葉の両面に毛がなく、腺点もない。県内各地に分布する。



似た植物

サワヒヨドリ (葉は無柄で、花は紅紫色で、葉に腺点がある)

シマフジバカマ (奄美大島に分布) (ヤマヒヨドリに似るが、葉に腺点がある)

腺点

ふつう、葉の裏面にある。分泌物をためた小さなふくろか、細胞間のすきま。ルーペで観察してみよう。

97 ヨメナ (きく科)

時期 秋に紫色の花をつける。

似た植物

場所 道路ばたや畑の土手などに多い。

解説 若い芽はいわゆる山菜として昔から利用されてきた。

似た植物

インドヨメナ
(大根占以南に分布する)



98 ヨモギ (きく科)

時期 8～10月頃に茶色の目立たない花をつける。

場所 田畑のあぜ道、日当たりのよい山地や草地、道路ばた、荒地に生える。

解説 春先から初夏にかけての若葉のヨモギは一般によく知られているが、花をつける頃1m近くも生長したヨモギを見ると別の植物とまちがう人も多い。四季を通して観察することが大切であることを知る身近な好例である。ノジギクと混生していると若葉のころは区別しにくい。しかし、花の時期に見るとノジギクがいわゆるキクの花をつけるのに対しヨモギは地味な風媒花をたくさんつける。花や実の時期に観察するとその植物の特徴がよく現われる例である。



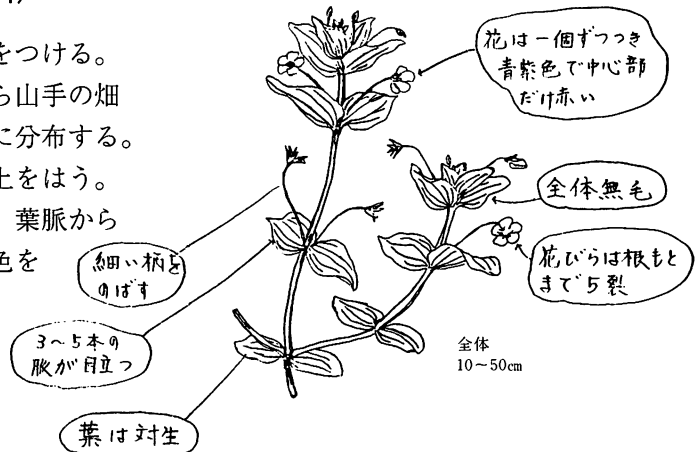
※ノギクという種名はなく、ノジギクやヨメナなどを総称している。

99 ルリハコベ (さくらそう科)

時期 3～5月頃、青紫色の花をつける。

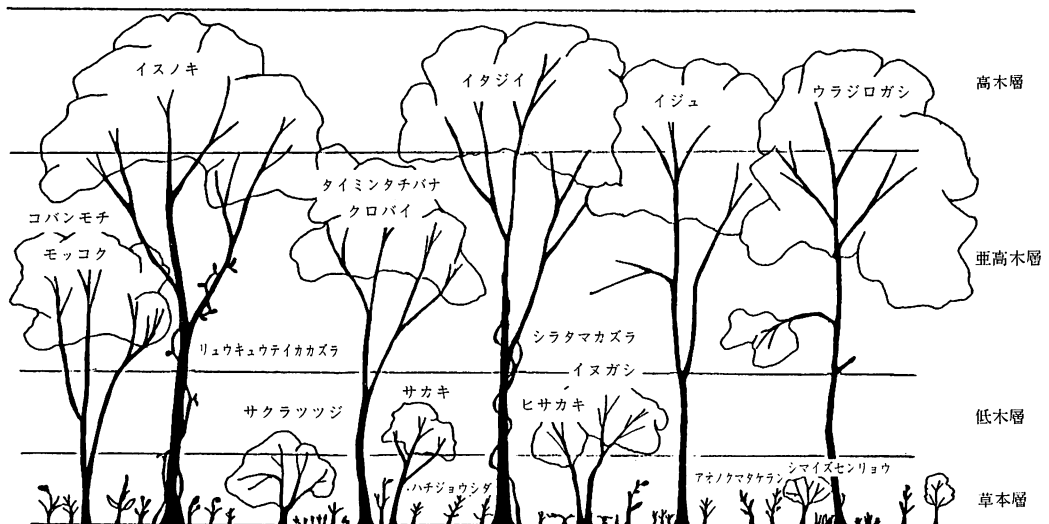
場所 海岸近くの畑や道ばたから山手の畑地まで見られる。県本土中部以南に分布する。

解説 茎は4角形で細長く、地上をはう。葉は卵形で先はとがり、対生する。葉脈から細長い花柄を出し、鮮やかなルリ色をした花が咲く。



似た植物 ない

(森林階層構造)



奄美大島森林模式図

100 アカメガシワ (とうだいぐさ科)

時期 夏～秋に花、実をつける。

場所 山野，特に林縁部，人家周辺，樹木を切った後に多い。

解説 特に春先の若葉は赤色を帯びている。落葉樹で葉は広くて(幅15cm位)葉柄も長い。夏に花をつけ秋に刺のある実をつける。枝を折ると木の皮がよくはげる。

このアカメガシワやイヌビワ，ヌルデあるいはハゼノキ，カラスザンショウなどは林縁部に多く見られる木である。山道を歩くと道へかぶさるようにして，必ず現れる植物



似た植物 ない

101 アコウ (くわ科)

時期 花は5月に開花し，実は8～9月に成熟する。

場所 海岸近くに生える。常緑の高木である。

解説 葉は互生し，質厚くなめらかで葉や茎を傷つけると白い乳液がでる。気根を出す。

気根→地上の茎や幹から空気中に出る根のことで，種類によっていろいろな働きがある。
 付着根(キズタなど) 他のものに固着する。
 支柱根(タコノキなど) 呼吸根(ラクウショウ)
 保護根(ヘゴなど) 浮根(ミズキンバイ)
 吸水根(セッコクなど)



似た植物 ない

102 アマクサギ (くまつづら科)

時期 8～9月に白色の花が咲く。

場所 山野に生える落葉高木で普通に見られる。

解説 アマクサギはクサギに比べると全体に毛が少なく，花序は少ない。若葉は食用にする。材はいか漁の餌木に使う。

名前の由来

クサギは茎，葉を傷つけると悪臭があることから。



似た植物

クサギ
 ショウロウクサギ
 (葉は三角状卵形で大きい)

103 イタジイ (ぶな科)

時期 5～6月頃に花が咲く。

場所 照葉樹林を形成する常緑の高木。

解説 大きい木は高さ45m, 径4mにもなる。葉の上半に粗鋸歯があり, 下面には淡褐色の鱗毛がある。

実は食用になる。

似た植物 コジイ



イタジイ
(スダジイ)

コジイ
(ツブラジイ)

イタジイ

樹皮がたてに割れる。

海岸近くに多い。

コジイ

樹皮が割れない。

内陸部に多い。(種子島, 高山, 川辺以北に分布する)

104 イヌビワ (くわ科)

時期 夏～秋に実がつく。

場所 林縁部, 川岸, 山道に多い。

解説 枝を折ると白い乳液が出る。葉の広い型と葉の細い型がある。実は黒紫色に熟し食べられる。



落葉低木
雌雄異株



似た植物

ホソバイヌビワ (イヌビワの葉の細い型)

105 ウラジロエノキ (にれ科)

時期 6～7月頃に花が咲き10～11月頃実は黒色に熟す。

場所 林縁部, 川岸, 道路わきに生えている。

解説 樹皮は灰褐色で, 小枝には短圧毛が密生する。

葉は鈍い細鋸歯があり, 上面はざらつき圧毛があり, 下面は絹状伏毛が密生して白色をしている。



似た植物

クワノハエノキ
大根占, 甌島,
種子島以南
葉の先端は尾状にとがらない。

106 エゴノキ (えごのき科)

時期 春に下向きに白い花が咲く。

場所 山地や川岸に多く生えている。

解説 落葉高木で高さ10m位、径30cm位になることもある。

樹皮は暗褐色で平滑、葉には柄があり、互生している。

材はかたく、傘のろくろやくり物に使われる。

「コヤス」「サーマーキ」「シャーマギ」などの方名がある。

似た植物 ない。



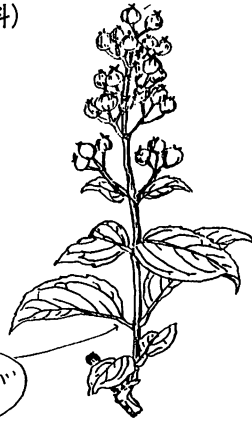
107 オオシマウツギ (ゆきのした科)

時期 春～夏に白い花を多数つける。

場所 畑地の土手や道路ばたの崖などに多く生えている。奄美群島に分布する。

解説 葉は対生で、両面共にざらつく、ウツギとは空木、^{うつき}茎が中空であることによる。葉の下面は白色でなく、葉の下面の星毛は多く枝分かれする。花序は大きい。

葉に短柄がある。



ゆきのした科にはコガクウツギのように花のつくりが退化して、がくが花弁状をしているかざり花(中性花)をもつものもある。ガクウツギ、アジサイなどで、実際に観察してみよう。

似た植物 マルバウツギ (トカラ列島以北に分布する)

108 オオハマボウ (あおい科)

時期 年中開花している、大きなきれいな花。

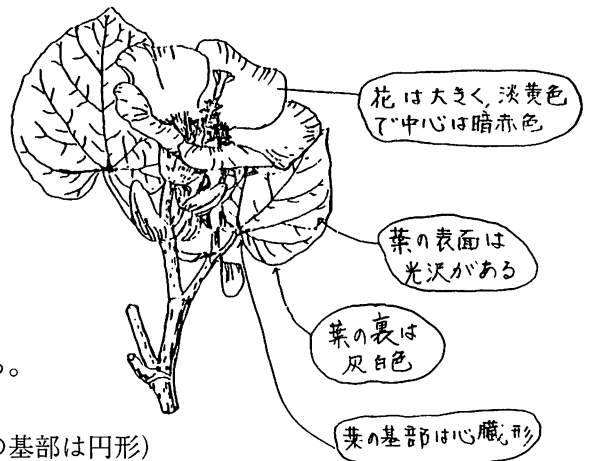
場所 海岸に生えている常緑の小高木。種子島以南に分布する。

解説 葉は卵形、表面は緑色でつやがあり、裏面は短い星毛があり、灰白色をしている。

海岸の防潮、防風木として利用されている。

似た植物 ハマボウ (県内各地に点在)

(葉の裏面は白色、葉の基部は円形)



109 オオムラサキシキブ (くまつぶら科)

時期 夏に花が咲き、果実は秋に紫色に熟す。

場所 海岸近くの山や道ばたに生える。県本土中部以南に分布する。

解説 高さ1.5～3 m位になり、小枝は灰白色をしている。葉の縁には鋸歯があり、対生している。花は淡紅紫色で密につく。

似た植物 ヤブムラサキ
屋久島以北に分布する。



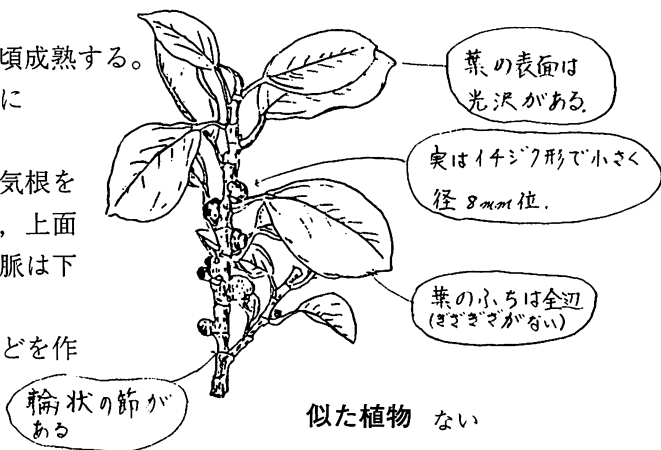
110 ガジュマル (くわ科)

時期 5月頃、花が咲き、果実は9月頃成熟する。

場所 屋久島、種子島以南の海岸近くに生える常緑の高木。

解説 高さ20 m、径1 m以上となり、気根を生じ、枝葉は密に繁り、葉には柄があり、上面は緑色で光沢があり、下面は淡緑色で主脈は下面に隆起する。枝には輪状の節がある。

庭木、生垣、盆栽に使う。材から盆などを作る。



111 クサトベラ (くさとべら科)

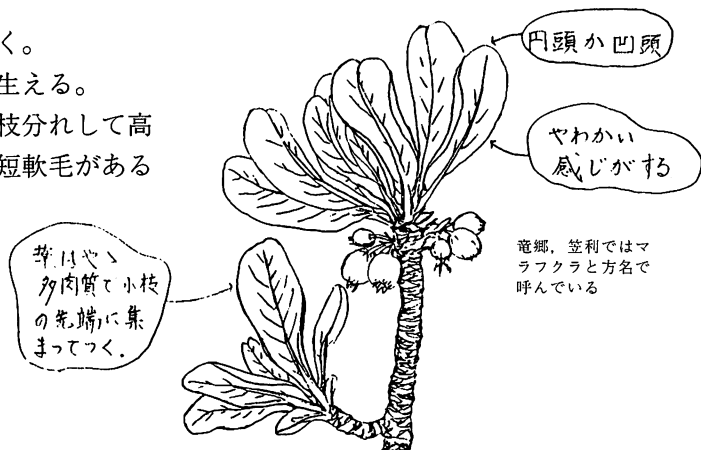
時期 夏に白色の花が葉腋に咲く。

場所 種子島以南の海岸近くに生える。

解説 半低木で枝が太く、少し枝分れして高さ1 m以上になる。全株に白色の短軟毛があるか無毛。葉の先は円頭かまれに凹頭、短い葉柄がある。

防風、防砂用に利用する。

似た植物 ない。



112 コンロンカ (あかね科)

時期 夏、枝の先に黄色の花が咲く。

場所 山地の林縁部、道路ばたに多く見られる。種子島以南に分布する。

解説 半つる性の低木で5 m位になる。小枝は帯赤褐色で灰白色の皮目がある。葉は薄い革質で、裏面には6~7対の側脈が隆起して目立つ。

似た植物 ない。



113 ゴンズイ (みつばうつぎ科)

時期 5~6月頃に若枝の先に花をつける。

場所 山野、道路ばたに多く生えている。

解説 落葉小高木、葉は対生し、奇数羽状複葉。県内各地に分布する。

ひもく皮目

樹木の小枝の表面に現れる隆起した小点。枝が肥大生長するにしたがって、横またはたてに広がる。呼吸のはたらきをする。



似た植物 ない

114 サンゴジュ (すいかずら科)

時期 初夏に白色の小花が集まって咲く。

場所 海岸近くに多く生える常緑の低木。

解説 枝がやや太く、灰褐色をおび葉とともにほとんど毛がない。葉の質は厚く、上面は光沢があり、下面は淡緑色。

防火、防風、防潮樹として適している。

似た植物 ない。



115 シマイズセンリョウ (やぶこうじ科)

時期 春に白色～少し紫色をおびる花が咲く。

場所 海岸に近い林縁部に生える。

解説 高さ1～1.5m位の低木で、葉はだ円形または長だ円形で、葉のへりに波形の荒い鋸歯がある。

似た植物 イズセンリョウ (やぶこうじ科)

鋸歯は側脈と同数で、花びらは5浅裂することで、シマイズセンリョウと区別する。



116 シャリンバイ (ばら科)

時期 初夏に花、夏～秋に実が熟す。

場所 海岸付近の岩場に多い。県内各地に分布する。

解説 花は白、葉には光沢があり裏面は白っぽい葉脈がはっきり見える。葉のへりはやや裏側へ巻くようにして曲がる。花が梅に似ており、直線的に出る枝が輪生するため、車輪梅の名が付いた。黒く熟した実の皮は甘い。



シャリンバイは大島紬の泥染めの原料として有名である。この木(葉を除く)を細く切り、10時間以上煮てその液を泥と混ぜて使う。この木に含まれるタンニン酸が染色に一役かうわけである。

117 トベラ (とべら科)

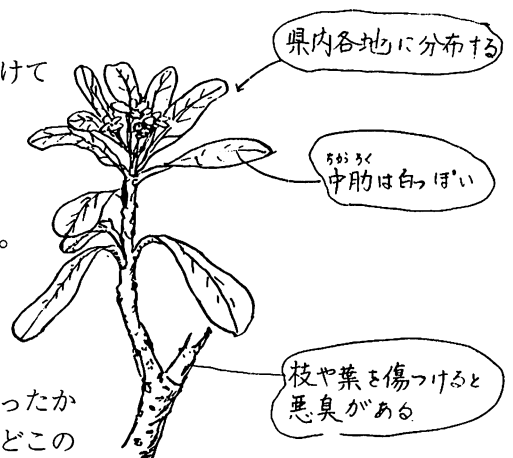
時期 5～6月頃、白い花、秋遅く、赤い実が裂けて出る。

場所 海岸近くの山に多い。人家周辺の山地、庭木としても植えられている。常緑の低木。

場所 樹皮は黒っぽい。葉は光沢があり濃い緑色。葉のへりは裏側へ巻きこんだようになっている。

木の枝や幹には特有のにおいがある。花は白から黄色に変わり芳香がある。

節分にこの木を扉にはさみ鬼をおいはらうのに使ったからトビラの木→トベラになったとされるが、それほどこの木の臭気は強い。



118 ナンバンキブシ (きぶし科)

時期 3～4月頃に淡黄色の花をつけ、6～7月だ円形の実がなる。

場所 海岸近くの林縁に生える。

解説 キブシに比べると枝は太く、葉は厚く大きい。葉の裏面は少し白っぽい。落葉低木。



雌雄異株

県本土中南部海岸周辺部以南に分布する



果実は長さ21mmにもなる

葉の長さ10～15cm

春先の道路ばたでよく見られる。黄色の房状をした美しい花（花の時期には葉はない）が咲いている。

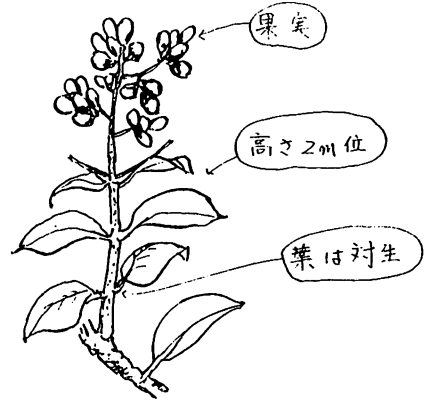
119 ネズミモチ (もくせい科)

時期 5～6月頃に白い花をつけ、10月頃に黒く実が熟す。

場所 山地や海岸近く、林縁部、川岸など人家周辺でもよく見かける。県内各地に分布する。

解説 本県では「サタギ」「イボタノキ」の方名でよく知られている。イボタノキ（もくせい科）は別にある。樹皮は灰色でなめらか、葉は対生、分厚く、にぶい光沢がある。

実の形がネズミの糞に似ることからネズミモチの名がついた。



果実

高さ2m位

葉は対生

120 ノボタン (のぼたん科)

時期 初夏に枝先に紅紫色の径8cmほどのきれいな花をつける。

場所 山地の林縁部に生える。奄美群島に分布する。



解説 全体に褐色のかたい毛がある。

葉は対生で、鋸歯はなく、3～5行脈がある。



淡紅色で径1.3cm位の花

鹿児島市と屋久島以南に分布する。

似た植物
ハシカンボク

121 ハマゴウ (くまつづら科)

時期 夏に紫色の花をつける。

場所 海岸の砂丘地に生えている。

解説 海岸で普通に見られる植物で、砂浜をうめつくすようにしてよく茂る。長い茎を伸ばし、節からは根を出す。落葉する低木。一種の香りがある。

似た植物 ミツバハマゴウ (宝島、奄美群島に分布する)
葉が3分裂する。



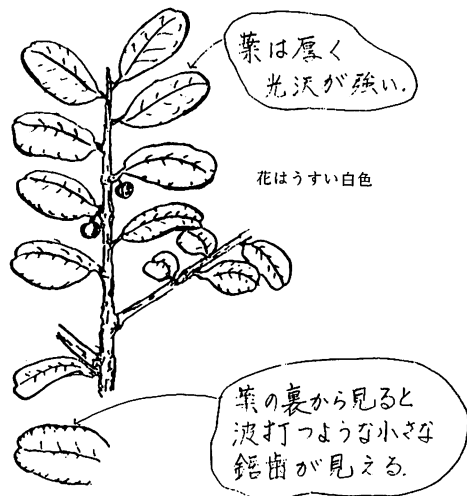
122 ハマヒサカキ (つばき科)

時期 春に花をつけ、実は熟すと黒くなる。

場所 おもに海岸付近、畑の土手や人家の垣根など。県内各地に分布する。

解説 花の時期には、特有な臭気 (腐臭) がただよう。海岸近くの畑や田んぼの土手によく見られる。また最近では道路わきや中央分離帯の植えこみにもよく用いられている。

低木のイメージが強いが、大きなものでは7~8mのものもある。



123 ヒイラギズイナ (ゆきのした科)

時期 初夏に枝先や葉のわきから美しい白色の花が密に咲く。

場所 山地や道路ばたに生える常緑の高木。奄美大島、徳之島に分布する。

解説 葉は革質で無毛、若木の葉は鋭い鋸歯を有するが、老木になると葉は全縁から全縁状になる。

若木から老木までの観察が大切である。

似た植物 ない。



124 ホルトノキ (ほるとのき科)

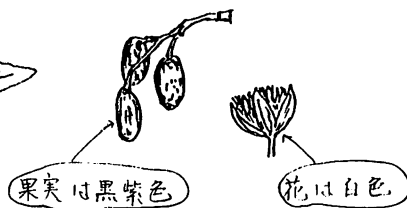
時期 7～8月頃、前年の枝に小さな白い花をつける。

場所 山地、道路ばたに生える常緑の高木、大きいものは高さ30m位になる。

解説 樹皮は灰褐色で不整にはげる。葉は有柄で互生し、無毛で縁に低い鈍鋸歯があり、主脈は裏面に隆起し、紅紫色をしている。



県本土中部以南に分布する。



果実は黒紫色

花は白色

似た植物 ヤマモモ (No126)

125 モクタチバナ (やぶこうじ科)

時期 5月頃、白い花が咲く。

場所 山地に生える常緑の低木。

解説 葉は枝先に集まって互生し、葉は鋸歯がなく質は厚い。表面の主脈がへこみ、下面には接近して平行する多数の側脈がある。

花は白～淡紅色の径8mm位のものがつく。

県本土点在、甌島以南に分布する。

似た植物 ない。



葉は革質

果実は球形ではじめ紅色で後に暗紫色に熟す

126 ヤマモモ (やまもも科)

時期 春～初夏に花をつける。雄花は黄褐色、雌花は緑色。

場所 山地に生える常緑の高木。

解説 葉は互生し、成葉は全縁で無毛、葉の下面に小腺点がある。

果実は食用とし、庭園樹や街路樹として植えられている。

似た植物 ホルトノキ (No124)



果実は暗紅紫色に熟し、食用

雌雄異株

127 リュウキュウバライチゴ (ばら科)

時期 春～夏にかけて白色の美しい花をつける。

場所 日当たりのよい山すそ、山地、道路ばたに生える低木。

解説 幹には刺があり、葉は奇数羽状複葉、葉柄、花序及びがくに長くかたい腺毛がある。果実は甘味があって美味。



調べてみよう 巻きひげのつき方を調べてみるとおもしろいことに気付く。エビズルの巻きひげは、葉と対生(向かい合って)しているが、そのつき方は右、左、無し、左、右、無し、右、左、……と規則性がある。ノブドウは各節につく。ブドウやヤブガラシなどについても調べてみよう。

128 エビズル (ぶどう科)

時期 秋に実をつける。

場所 山地や草原のやぶ、畑地付近、道路ばたに多い植物。

解説 ノブドウとまちがう人が多く、また、ヤマブドウと言う人も多いが、本県にはヤマブドウはない。



129 オオイタビ (くわ科)

時期 夏～秋に実がなる。

場所 人家の石垣や木にからみついてる。

葉の大きさは4～5cm
葉の裏の葉脈に毛がある。

県本土北部を除く各地に分布する。



130 カナムグラ (くわ科)

時期 夏～秋に花をつける。

場所 道路ばたや荒地のやぶにおおいかぶさるようにして茂る。県内各地に分布。トカラ列島に記録なし。

解説 雄花のつく株
め花のつく株 } 別々になっている。
→ 雌雄異株

トゲの役割

自分の体を支えきれないつる植物には刺や巻きひげを持つものが多い。他の植物などに自分の体をひっかけたり、からまったりするのにつごうがよい。

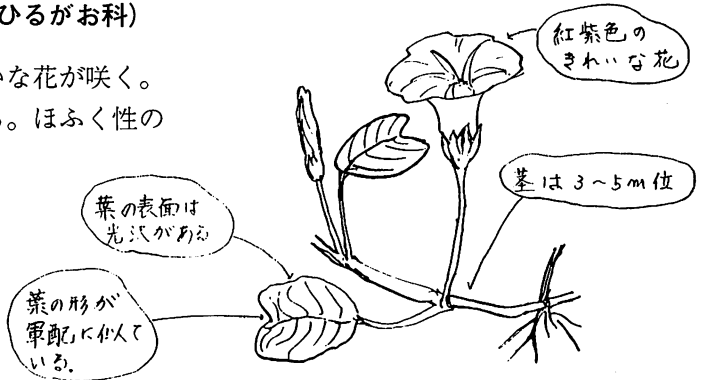


131 ゲンバイヒルガオ (ひるがお科)

時期 夏～秋に紅紫色のきれいな花が咲く。

場所 海岸の砂丘地に見られる。ほふく性の多年草。県内各地に分布する。

解説 ゲンバイヒルガオは葉の形がおすもうの行司さんの持っている軍配に似ているからゲンバイヒルガオと名が付いた。



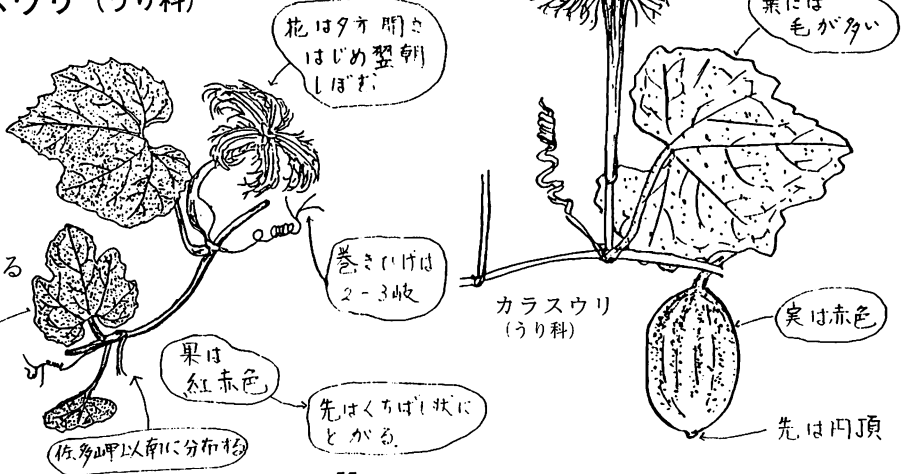
似た植物 ハマヒルガオ (No140)

132 ケカラスウリ (うり科)

時期 夏に花、秋に実。

場所 山地の道ばたや林縁部などに見られる多年生のつる植物。

3-5に浅裂し裏面には短い軟毛があつてざらつく



似た植物 屋久島以北に分布する

133 サツマサンキライ (ゆり科)



サツマサンキライ

時期 秋～冬にかけて花が咲く。県本土中部以南に分布する。

場所 海岸近くの山野に生えるつる性の低木。

解説 幼木にはトゲがあるが成長するとトゲはなくなる。冬に開花し、果実は青紫色に熟す。

似た植物

サルトリイバラ

初夏に花が咲く。山野に生える、つる性の低木。中之島以北に分布する。猿トリイバラの意、トゲがあって「サル」がひっかかるという意味。茎はつる状になって、まばらにトゲがある。

似た植物

ハマサルトリイバラ

サルトリイバラに似るが、トゲがなく、果実は黒色。県本土南部に点在、大根占以南に分布する。

調べてみよう 本県には3,000種以上の高等植物(菌類, コケ類を含まない)が自生している。植物は四季おりおりにさまざまな花を咲かせ、そのなかにはきれいな花もあれば、めだたない花もあるが、全ての植物に名前がついている。身近な植物からだんだん多くの植物を知ろう。

134 シラタマカズラ (あかね科)

時期 4～7月、白色で筒形の小さな花をつける。

場所 海岸近くの常緑樹林や土手に生える。

解説 常緑のつる性植物で、茎は緑色で細長くのび、気根をだして樹木や岩に付着してはいのぼり、長さ2～4 m位になる。

葉は多肉質でつやがあり、長さ2～4.5cm、幅1～2 cm位になる。

似た植物 ない。



135 センニンソウ (きんぼうげ科)

場所 夏～秋に白い花が咲く。

場所 草地や道路ばたのやぶ、林のへり、河原のやぶなどにおい茂る。県内各地に分布する。

解説 白い花びらのように見えるのは「がく」。実は3 cm余りの白い羽毛が残り風で飛ばされやすいつくりになっている。秋、この実がいっぱいからみついている様子が見られる。有毒植物で、これを便所のウジ殺しに使ったりした。

似た植物 ヤンバルセンニンソウ

葉は3小葉で種子島以南に分布する。



葉は対生

136 ツルグミ (ぐみ科)



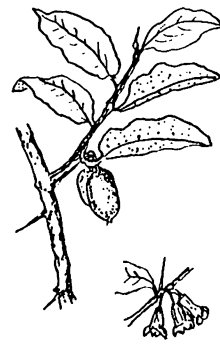
ツルグミ

似た植物



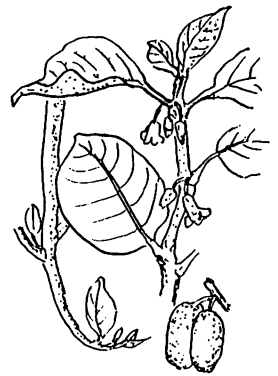
アキグミ

似た植物



ナワシログミ

似た植物



マルバグミ

時期 晩秋～初冬に花が咲き翌春に実は熟す。

場所 海岸林や林中に生える。県内各地に分布。

解説 つる性の常緑低木、葉の裏は赤褐色。小枝は濃赤褐色で細く不明瞭な稜角があって丸い。

時期 花は4～5月頃、実は赤く熟す。

場所 海岸から山野まで最も多く見られる。

解説 秋に実が熟すことからアキグミ。葉は白っぽい。徳之島以北に分布する。

時期 秋遅く花をつけ、翌春に実は赤く熟す。

場所 海岸近くの山野に多く見られるが、山地部にも多い。

解説 苗代の時期に実が熟すことからナワシログミ。葉はかたく光沢がある。表は緑色、裏は褐色の点がある。屋久島以北に分布。

時期 秋遅く花をつけ翌春に実が赤く熟す。

場所 海岸林の植物で、主として県本土南部以南。

解説 つる性の低木。葉の表面は弱い光沢があり、裏は銀白色。

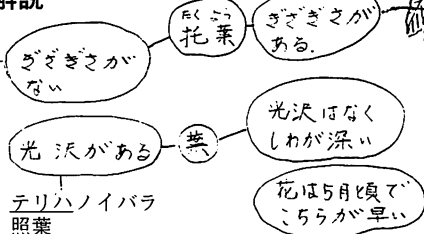
137 テリハイノバラ (ばら科)



時期 6月頃に白い花, 秋に実は赤く熟す。県内各地に分布する。

場所 特に海岸に多い。畑の土手, 日当たりのよい山野, ノイバラは海岸より山地の方に多い。

解説



似た植物



138 ノアサガオ (ひるがお科)

時期 6月頃から紅紫色のきれいな花をつける。

場所 海岸近くから山手まで見られるつる性の草本。

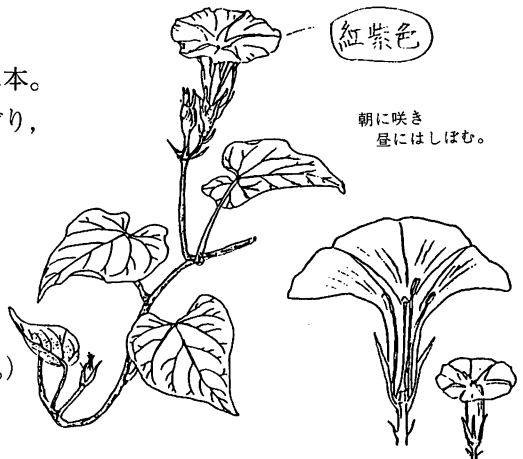
解説 茎は長さ10m以上にもなり, 木をはいのぼり, 時として林縁部をおおいかくすことがある。

野朝顔——ノアサガオ

野生のアサガオの意味

県本土中部以南各地に分布する。

似た植物 シロバナノアサガオ→花が白色のもの。
(個体数は少ない。)



139 ハスノハカズラ (つづらふじ科)

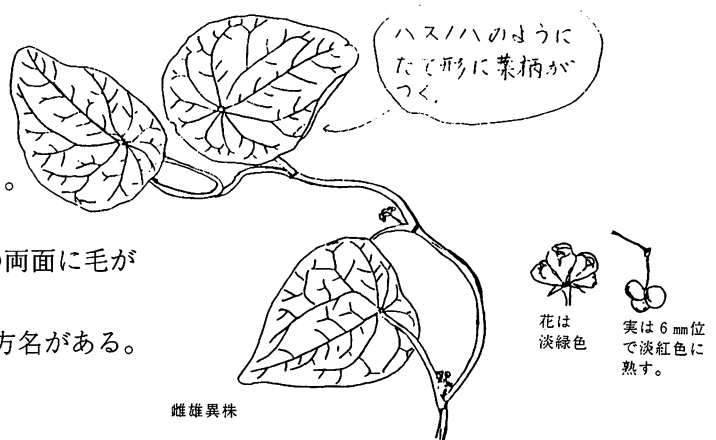
時期 夏から秋にかけて淡緑色の花をつける。

場所 海岸付近, 道路ばたなどいたるところに普通に見られる。県北部を除く各地に分布する。

解説 多年草のつる性の草本で, 葉は長い柄があって, 互生し, 葉の両面に毛がない。

「ウバカズラ」「ビルカズラ」の方名がある。

似た植物 ない。



雌雄異株

140 ハマヒルガオ (ひるがお科)

時期 5～6月頃に花をつける。

場所 海岸の砂丘地、川べりや砂地のところ、土手など、県内各地に分布する。

解説 つる性の常緑の多年草、もともと海浜の植物であるが、人里付近でもよく見かける。

花はうすい桃色、葉は光沢があり直径2～3cm位。長い柄があって互生し腎臓形をしている。

名前の由来

ヒルガオに似た花が咲き、浜に生える。

似た植物 ゲンバイヒルガオ (No131)



141 ビナンカズラ (まつぶさ科)

(サネカズラ)

時期 7～8月頃淡黄白色の花を下向きにつける。

場所 山地、道路ばたなどに生える。

解説 常緑のつる性の木で、太いものは径2cm位になり、皮に粘液をふくんでいる。葉の質は厚く、軟らかく縁に鋸歯があり、上面は光沢があり、下面は紫色をおびることもある。

茎の粘液は昔、頭髮を洗うのに使った。

似た植物 ない。



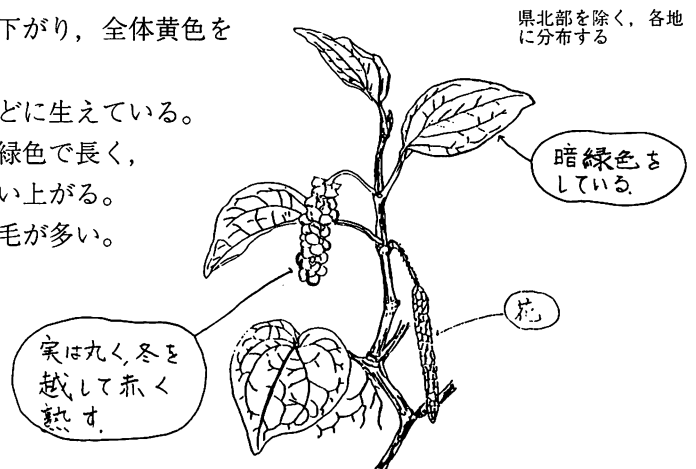
142 フウトウカズラ (こしょう科)

時期 初夏、枝先に花穂がたれ下がり、全体黄色を帯びる。

場所 海岸に近い山林、山地などに生えている。

解説 常緑のつる植物で、茎は緑色で長く、節より気根をだして、岩や木にはい上がる。葉は対生し、若木のものは裏面に毛が多い。

似た植物 ない。



143 ヘクソカズラ (あかね科)

時期 8～9月頃に花をつけ、秋に実は黄色に熟す。

場所 人里付近の林のやぶや畑のそば、道路わきのやぶなど。県内各地に分布する。

解説 葉をもんでおいをかぐと独特の悪臭がある。これからヘクソカズラの名がついた。

花は名前に似合わずきれいで、子供達がこの花を鼻の頭につけて遊んだ。

地方によってはハナテングの方名で呼んでいる。

別名 ヤイトバナ **似た植物** ない。



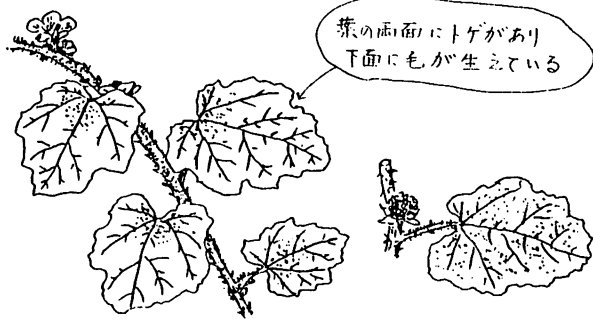
あかね科の植物は全て葉が対生する。また全て托葉を持つが、それが葉のように変化したのが、アカネ属やヤエムグラの仲間である。

144 ホウロクイチゴ (ばら科)

時期 3～4月頃、白色の花が咲き、実は冬に赤く熟す。

場所 山林や道路ばたに多く生える。県北部を除く各地。

解説 常緑で茎は太く、伸長し長短の毛と細いトゲがある。葉は硬く下面は淡黄褐色の毛でおおわれ、両面に短いトゲがある。



似た植物 クマイチゴ→荒地に多く、葉は長い。種子島以北に分布する。アマミノフユイチゴ
フユイチゴ→山林中、小形の葉。悪石島以北に分布する。
(奄美群島に分布する。フユイチゴに比べ小形の植物)

145 リュウキュウテイカカズラ (きょうちくとう科)

時期 初夏に白色で香りのある花が咲き、後に黄色に変化する。

場所 山地、山野の林縁部に多く生えている。

解説 常緑のつる性の植物で、茎の太いものは4cm位、長さ5mに達する。佐多岬以南に分布する。葉には柄があり、葉面は毛がある。

似た植物 ケテイカカズラ→葉の裏面に毛がある。県本土点在。沖永良部島に分布する。
テイカカズラ→リュウキュウテイカカズラの基本種、県本土各地に分布する。



索

引

選ばれた145種以外に、この解説書で取りあげた植物

ア		キ		シロバナノアサガオ	58
アオカモジグサ	16	キキョウ	32	ス	
アオナワシロイチゴ	38	キズタ	45	スイバ	30
アキグミ	57	キツネノボタン	33	ススキ	20
アキノエノコログサ	16	キブシ	51	セ	
アキメヒシバ	22	キンエノコロ	16	セッコク	45
アジサイ	47	ギンリョウソウ	38	セトガヤ	18
アマミシマアザミ	32	ク		タ	
アマミノフユイチゴ	60	クグガヤツリ	17	タコノキ	45
アメリカセンダングサ	32	クサギ	45	タチシノブ	12
アレチノギク	27	クマイチゴ	60	タチチチコグサ	35
イ		クマノギク	29	ダンドボロギク	41
イズセンリョウ	50	クリハラン	13	チ	
イヌビユ	23	クルマバナ	37	チャガヤツリ	17
イノモトソウ	14	クワクサ	26	ツ	
イボタノキ	51	クワノハエノキ	46	ツユクサ	22
イラクサ	29	グンバイナズナ	37	ツリガネニンジン	32
イワガネ	29	ケ		ツルノゲイトウ	34
インドヨメナ	43	ケテイカカズラ	60	テ	
ウ		ケホシダ	13	テイカカズラ	60
ウシハコベ	39	コ		ト	
ウマノアシガタ	33	コオニタピラコ	28	ドクダミ	41
ウラジロ	11	コガクウツギ	47	ナ	
エ		コケオトギリ	28	ナガバカニクサ	11
エラブユリ	19	コジイ	46	ナワシログミ	57
オ		コセンダングサ	32	ヌ	
オイランアザミ	32	コツブキンエノコロ	16	ヌルデ	45
オオアマクサシダ	10	コニシキソウ	39	ネ	
オオイヌタデ	25	コバノセンダングサ	32	ネジバナ	19
オオジシバリ	33	コバンソウ	21	ノ	
オオナンバンギセル	38	コマツヨイグサ	24	ノイバラ	58
オオバノイノモトソウ	14	コメヒシバ	22	ノゲシ	23
オオマツヨイグサ	24	コモチシダ	12	ノコンギク	43
オニノノゲシ	40	サ		ノジギク	26
オニヤブマオ	38	サツマノギク	26	ノジギク	44
オランダガラシ	35	サトイモ	16	ノブドウ	54
カ		サルトリイバラ	56	ハ	
カスマグサ	34	サワヒヨドリ	43	ハイアワユキセンダングサ	42
カントリソウ	36	シ		ハイメドハギ	42
カヤツリグサ	17	ショウロウクサギ	45	ハコネシダ	13
カラスウリ	55	シコンノボタン	51	ハシカンボク	51
カラスザンショウ	45	シマスズメノヒエ	18	ハゼノキ	45
カラスノエンドウ	34	シマツユクサ	22	ハドノキ	29
ガクウツギ	47	シマフジバカマ	43	ハナウリクサ	26

ハマウツボ	38	フユイチゴ	60	ミソナオシ	39
ハマグルマ	29	ヘ		ミチバタガラシ	59
ハマサルトリイバラ	56	ヘゴ	45	ミツバハマゴウ	52
ハマツメクサ	36	ホ		ミミナグサ	28
ハマボウ	47	ホウキギク	27	ム	
ヒ		ホソバインビウ	46	ムラサキツメクサ	31
ヒエガエリ	21	ホラシノブ	12	ヤ	
ヒカゲノカズラ	14	ポントクタデ	25	ヤエムグラ	60
ヒナタイノコヅチ	40	マ		ヤドリギ	38
ヒノキバヤドリギ	28	マツヨイグサ	24	ヤナギタデ	25
ヒメイタビ	54	マメヅタ	14	ヤブガラシ	54
ヒメオトギリ	28	マルバウツギ	47	ヤブヘビイチゴ	41
ヒメミカンソウ	30	マルバグミ	57	ヤブムラサキ	48
ヒルガオ	59	マルバヤハズソウ	43	ヤンバルセンニンソウ	57
フ		ミ		ラ	
フキ	37	ミスキンバイ	45	ラクウショウ	45

参 考 文 献

鹿児島県植物目録	1978	初島住彦	鹿児島植物同好会
寺崎日本植物図鑑	1977	奥山春季編	平凡社
原色日本帰化植物図鑑	1977	長田武正	保育社
新牧野日本植物図鑑	1961	牧野富太郎	北隆館
原色日本植物図鑑（上中下シダ編）	1957～64	北村四郎他	保育社
新日本草本植物総検索誌（Ⅰ～Ⅳ）	1978～82	杉本順一	井上書店
沖縄植物野外活用図鑑（1～6）	1979	池原直樹	新星図書出版
琉球植物誌	1975	初島住彦	沖縄生物教育研究会
日本の樹木	1976	初島住彦	講談社
琉球の植物	1979	初島住彦	講談社
カラー植物百科	1984	下中邦彦編	平凡社
人里の植物（Ⅰ～Ⅱ）	1981	長田武正	保育社
鹿児島県植物方言集	1980		鹿児島県立博物館

